

# CSRマネジメント

## CSRに関する方針・指針

## 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント

## ISO26000との関係

## コーポレートガバナンス・内部統制システム

## CSR推進体制

- CSR推進体制と組織マネジメント
- CSRマネジメントツール
- CSR委員会・社外委員からのコメント

## コンプライアンス

- コンプライアンスの考え方
- コンプライアンス推進活動
- 「企業倫理要項」の遵守
- 個人情報保護の取り組み
- 内部通報システムと公益通報者の保護
- 公正な取引
- 各種補助金の適正業務実施と適正運用

## ヒューマンリレーション・人権擁護

- ヒューマンリレーション推進体制
- ヒューマンリレーション研修
- セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント相談窓口

## リスクマネジメント

- リスクマネジメント体制
- 自然災害発生時の対応
- 廃棄物処理に関するリスクへの対応
- アスベスト問題への対応
- 解体工事に係る環境関連法への対応
- 土壌汚染に関するリスクへの対応

## 環境マネジメント

- 環境マネジメントの推進・方針
- ISO14001認証取得
- 環境に関する法令の遵守状況
- 従業員への環境取り組みの研修(一般教育・研修)

## 「エコ・ファーストの約束」

- 「エコ・ファーストの約束」進捗報告
- 「エコ・ファースト推進協議会」の活動への参加

## 研究・開発

- R&Dの拠点「総合住宅研究所」
- BMIの一般生活環境への適用可能性確認
- 2030年の未来の家「エネマネハウス2014」で最優秀賞受賞
- 日本初、実際に家族が暮らしながら実施する「スマートエネルギーハウス」居住実験
- 生体情報による健康管理で快適・安心な暮らしを創出

## これまでのあゆみ

## 社外からの主な評価

- SRIインデックスへの組み入れ
- 主な表彰実績

## CSRに関する方針・指針

### 積水ハウスの企業理念・CSR方針

積水ハウスグループの企業理念の根本哲学は「人間愛」です。「人間愛」とは、「相手の幸せを願い、その喜びを我が喜びとする奉仕の心を以って何事も誠実に実践する」というものです。全従業員での討議を経て1989年に制定しました。

そして、その幸せを願う対象となる重要なステークホルダーを「お客様」「従業員」「株主様」としています。つまり、お客様満足（CS）、従業員満足（ES）、株主様満足（SS）を達成することが積水ハウスグループの企業理念を踏まえたCSR方針です。2004年10月に策定・発表した中期経営ビジョン「S-Project」でCS・ES・SSの三位一体の向上に加え、CSRを経営の基本として、すべてのステークホルダーに対して誠実にその責任を果たす企業となることを目標に掲げ、実践しています。

#### ■ 企業理念（1989年1月制定）



### 人間愛

～私たちの根本哲学～

「人間は夫々かけがえない貴重な存在であると云う認識の下に、相手の幸せを願いその喜びを我が喜びとする奉仕の心を以って何事も誠実に実践する事である」

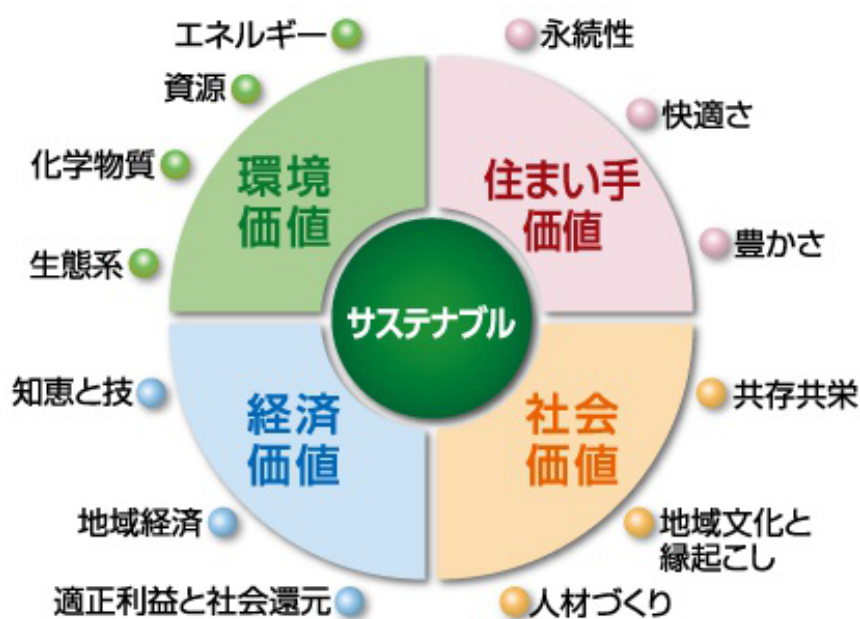
#### 【関連項目】

- > [企業理念・行動規範](#) 
- > [CSR推進体制と組織マネジメント](#) (p.83)

## 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント

積水ハウスグループのCSR活動は「サステナブル・ビジョン」を実現するための行動指針である「4つの価値」と「13の指針」に基づいて方向性を定めています。そして、PCDAサイクルを確実に回すため、社会性目標・環境目標を設定し、結果を検証することで活動内容の見直しを毎年実施しています。

### ■ 「4つの価値」と「13の指針」



#### 1) 環境価値

私たちの社会と暮らしが大切な地球の資源とそこに成り立つ多様な自然から生み出されたことを常に意識しています。環境保全、地球温暖化防止に貢献する住宅産業の役割と責任を自覚し、その負荷を削減するための対策を進めています。

##### ■ エネルギー

#### 化石燃料に依存しないエネルギー利用の実現

二酸化炭素など温室効果ガスを排出する石油、天然ガスなど「化石燃料」の使用量を減らします。また、未来にわたって持続可能に使用できるエネルギーの普及を促進し、その再生可能な範囲内で利用します。

##### ■ 資源

#### 自然生態系の再生能力を超えない資源の利用

3R(リデュース・リユース・リサイクル)を通じて廃棄物を発生させない資源の利用を達成し、同時に、いずれ枯渇する自然資源の使用を、再生可能な資源またはリサイクル資源に置き換え、その持続可能な供給範囲内で資源を利用します。

## ■ 化学物質

### 自然界に異質で分解困難な物質の濃度を増やし続けない

化学物質の利用の影響が自然の分解能力の範囲内に収まるよう、使用する化学物質の種類と使用量を抑え、またその影響が不明な場合には事前に関係者と協議して進める予防原則を踏まえて利用します。

## ■ 生態系

### 自然の循環と多様性が守られるよう配慮する

何万年もの歴史を経て地球上の生き物の生存を支え、浄化・再生能力によって我々の暮らしを成り立たせつづけてきた微妙な生態系、生物の多様性を尊重し、これを維持保全することをめざします。

## 2) 経済価値

住宅産業は広く社会や経済の活性化に寄与するすそ野の広い事業です。新しい技術やサービスも持続可能な社会、住環境と暮らしを豊かにするために還元していきます。魅力的な付加価値を多くの人に提供し、得られた利益を社会に還元する経済の良好な循環をめざしています。

## ■ 知恵と技

### 「サステナブル」な価値を創造する知恵と技術の蓄積

資源・エネルギーと時間の生産性を高め、環境・社会と調和する知恵、技術、プロセスを開発、蓄積し、「サステナブル」な商品とビジネスモデルを提供しつづけます。

## ■ 地域経済

### 地域経済の活性化

住まいの提供を行う各地域において、地元の材やサービスを活用し、その波及効果を創り出すことを通じて、地域内での価値の循環による経済の活性化を図ります。

## ■ 適正利益と社会還元

### 適正な企業利益の追求と社会への還元

事業の持続的成長をめざして適正な利益を追求し、またその過程において関与するお客様、取引先、従業員、株主、地域などのさまざまな関係者への適正な経済価値の配分を行います。

## 3) 社会価値

暮らしの器である住まいを提供することは、生活文化を継承し、創造していくこと。美しいまちなみといきいきとしたコミュニティを育むことが私たちの役割です。コンプライアンスをすべてのベースとしつつ、豊かなコミュニケーションを推進し、新しい社会の構築に寄与します。

## ■ 共存共栄

### 社会の様々な関係者との信頼と共感に基づく共存共栄の関係構築

法の遵守はもちろん、企業市民として積極的に社会貢献活動に従事するとともに、企業活動を通じてつながる現在および未来のすべての人々との双方向コミュニケーションと協働を深め、信頼と共感を醸成し、公正かつ共存共栄の関係を築きます。



## ■ 地域文化と縁起こし

### 地域文化の継承・醸成コミュニティ育成

地域の多様な文化を継承・醸成しながら、年が経つとともに美しいまちなみ・景観をつくり、「血縁」「地縁」「知縁」の「縁起こし」の拠点となるコミュニティ育成に貢献します。

## ■ 人材づくり

### 「サステナブル」な価値を創出する人材づくり

従業員の多様性を高め、視野を広げ、人間愛に満ちた「サステナブル」な価値創出の能力を開発し、業務を離れた場面においても社会に貢献できる人材をつくります。また、従業員のワーク・ライフ・バランスを整え、やりがいを提供することで、能力を発揮できる環境を整えます。

## 4) 住まい手価値

家族の思いに応える住まいを提案し、すべての人々が生涯にわたって、安全・安心に快適に暮らせるための性能を提供します。永く住み継がれる住まいづくりに努め、住まいの資産価値を守ることも私たちの役割です。自然や社会との関係性を考えた提案によって末長く快適な暮らしを支え、住まい手の価値を高めます。

## ■ 永続性

### 末長く愛され、時とともに値打ちを高める住まいづくり

年月とともに成熟する佇まいを持ち、暮らしの変化に対応して永く愛され、住み継がれる住まいを創り、適正なライフサイクルコストを実現し、時とともに値打ちの出る住まいの提供をめざします。

## ■ 快適さ

### 穏やか、健やかで快適な暮らしの提供

ユニバーサルデザインや防災、防犯、カスタマーズサポートや最適なりフォーム提案などすべての人にとって安全、安心、健康、快適な住まいを提供します。

## ■ 豊かさ

### 永きにわたる豊かさの提供

家族の想いに応えるコンサルティング・ハウジング（「私だけの一邸」）を通じて、家族や近隣、自然とのふれあい、美しさ、楽しさを創り出し、永きにわたり住まい手の心の豊かさを実現する住まいを提供します。

## ISO26000との関係

2010年に国際標準化機構から公表されたISO26000は社会的責任に関する国際ガイダンス規格です。すべての組織が社会的責任にどのように取り組むべきかの手引を提供しています。

下表は、当社の「サステナブル・ビジョン」を実現するための行動指針である「4つの価値」と「13の指針」が国際規格に照らしてどのような位置付けになるかを整理したもので、ISO26000における七つの中核主題すべてに概ね当てはまること分かります。今後も「4つの価値」と「13の指針」に基づく活動を推進していきます。

積水ハウスの「4つの価値」と「13の指針」		該当するISO26000の中核主題・課題	
指針	内容	中核主題	課題
<b>環境価値</b>			
エネルギー	化石燃料に依存しないエネルギー利用の実現	環境	気候変動の緩和及び気候変動への適応
資源	自然生態系の再生能力を超えない資源の利用	環境	持続可能な資源の使用
化学物質	自然界に異質で分解困難な物質の濃度を増やし続けない	環境	汚染の予防
生態系	自然の循環と多様性が守られるよう配慮する	環境	環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復
<b>経済価値</b>			
知恵と技	「サステナブル」な価値を創造する知恵と技術の蓄積	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術の開発及び技術へのアクセス</li> <li>■ 雇用創出及び技能開発</li> </ul>
地域経済	地域経済の活性化	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コミュニティへの参画</li> <li>■ 教育及び文化</li> <li>■ 雇用創出及び技能開発</li> </ul>
適正利益と社会還元	適正な企業利益の追求と社会への還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織統治</li> <li>■ 公正な事業慣行</li> <li>■ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公正な競争</li> <li>■ 富及び所得の創出</li> <li>■ 社会的投資</li> </ul>

社会価値			
共存共栄	社会のさまざまな関係者との信頼と共感に基づく共存共栄の関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公正な事業慣行</li> <li>■ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ バリューチェーンにおける社会的責任の推進</li> <li>■ 財産権の尊重</li> <li>■ コミュニティへの参画</li> </ul>
地域文化と縁起こし	地域文化の継承・醸成とコミュニティ育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 消費者課題</li> <li>■ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 消費者の安全衛生の保護</li> <li>■ コミュニティへの参画</li> <li>■ 教育及び意識向上</li> </ul>
人材づくり	「サステナブル」な価値を創出する人材づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人権</li> <li>■ 労働慣行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 苦情解決</li> <li>■ 差別及び社会的弱者</li> <li>■ 労働における安全衛生 ほか</li> </ul>
住まい手価値			
永続性	末永く愛され、時とともに価値を高める住まいづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 消費者課題</li> <li>■ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 持続可能な消費</li> <li>■ 消費者データ保護及びプライバシー</li> <li>■ 必要不可欠なサービスへのアクセス</li> <li>■ 健康 ほか</li> </ul>
快適さ	穏やか、健やかで快適な暮らしの提供		
豊かさ	長きにわたる豊かさの提供		

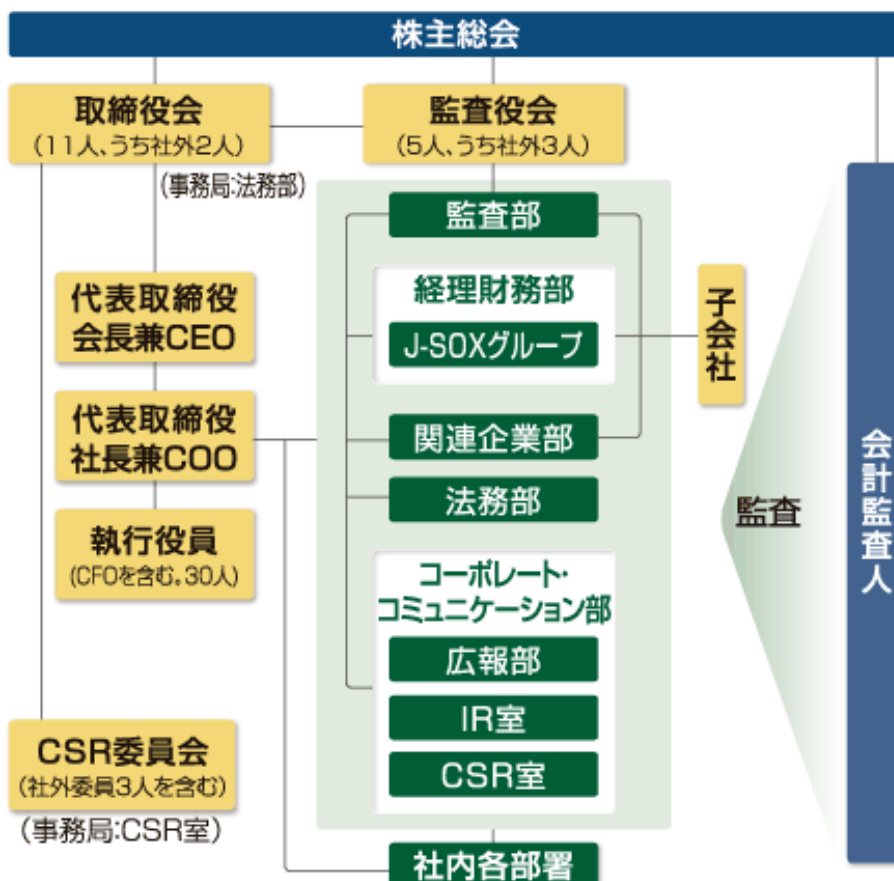
## コーポレートガバナンス・内部統制システム

ステークホルダーからの信頼を高めるために、コーポレートガバナンスを経営の重要課題と位置付けています。経営の透明性を確保し、適時・適切なチェック機能と監視機能が発揮できるよう、取締役会に2人の社外取締役、監査役会に3人の社外監査役を配置しています。また、執行役員制を導入し、経営責任の明確化と業務執行の迅速化を図っています。

内部統制については「内部統制システム構築に関する基本方針」に基づくシステムの運用徹底、その強化に取り組んでいます。

また、グループ全体の金融商品取引法による内部統制(J-SOX)の遵守と徹底は、経理財務部内のJ-SOXグループが中心となって対応しています。

### ■ コーポレートガバナンス体制(2014年4月現在)



#### 【関連項目】

- > [CSR方針と企業理念](#) (p.76)
- > [CSR推進体制と組織マネジメント](#) (p.83)

## CSR推進体制

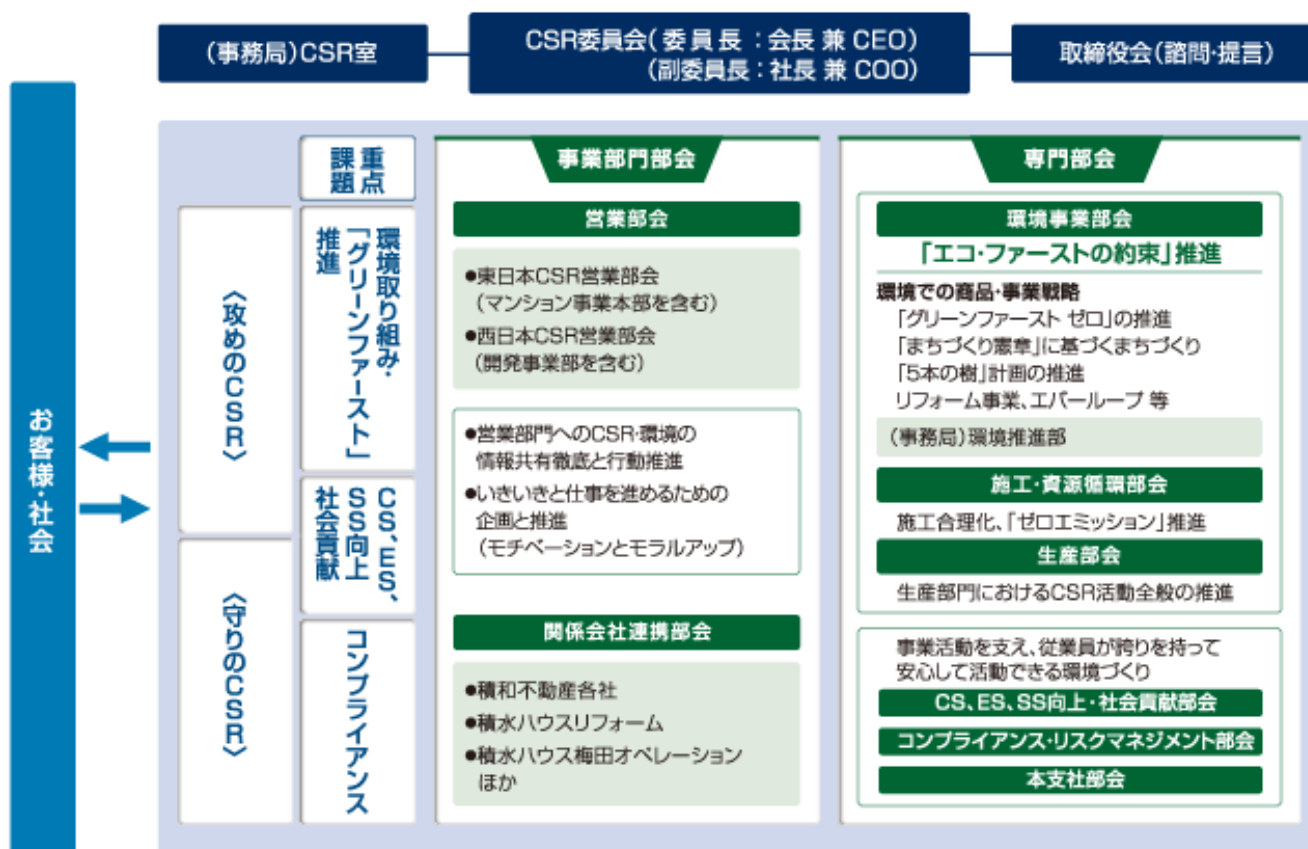
## CSR推進体制と組織マネジメント

## 社外の目をCSR経営に取り入れ、取り組みを充実させています

当社では、会長兼CEOを委員長とし、社内委員（社内取締役全員と一部の執行役員）のほか、各界の有識者3人を社外委員として加えた「CSR委員会」を3カ月に一度開催しています。「社外の目」をCSR経営に取り入れ、現在のCSR活動が社会の常識や期待と合致しているかチェックしながら、活動方針を定めていくことで、グループ全体のCSRへの取り組みを充実させています。CSR委員の決定は、取締役会の決議によるものとしています。

CSR委員会の傘下には、二つの「事業部門部会」と六つの「専門部会」を設け、活動の推進と徹底を図っています。事業部門部会の営業部会が本業を通じてのCSR活動の中核的組織として具体策の立案から結果の検証までを行っており、これをサポートする形で専門部会がそれぞれのテーマごとに取り組みを進めています。また、事業所長と連携して事業所内でCSR活動を推進するため、全事業所にCSR推進委員を配置しています。

## ■ CSR推進体制



2013年度は、これまで推し進めてきた「グリーンファースト」戦略を進化させ、政府が2020年までに普及を目指す「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)」を先取りした「グリーンファースト ゼロ」の販売を開始(4月)。高い断熱性と最新の省エネ設備で消費エネルギーを大幅に削減し、太陽電池や燃料電池の創エネで「エネルギー収支ゼロ」を目指す先進住宅です。当初の年度目標(当社が受注した戸建住宅に占める「グリーンファースト ゼロ」率40%)を早期に上方修正するなど本業を通じた「攻めCSR」活動として大きな成果を上げました。

同時に、「守りのCSR」活動にも注力し、従業員研修やEラーニングなどで、従業員のモチベーションやモラルの向上、CS・ES・SSの向上、コンプライアンスの徹底を図ってきました。また、「会社は社会の公器」という認識のもと、社会貢献活動にも全社を挙げて取り組む一方で、東日本大震災の被災地復興支援活動に新入社員を参加させ、企業理念の根本哲学「人間愛」や「行動規範」に基づく相手本位の考え方を身につけ、住宅事業の意義について理解を深めています。本支援活動は継続実施していく予定です。

## CSRマネジメントの課題と今後の取り組み事項

2013年度のCSR活動重点項目を振り返り、2014年度は以下の通り取り組んでいきます

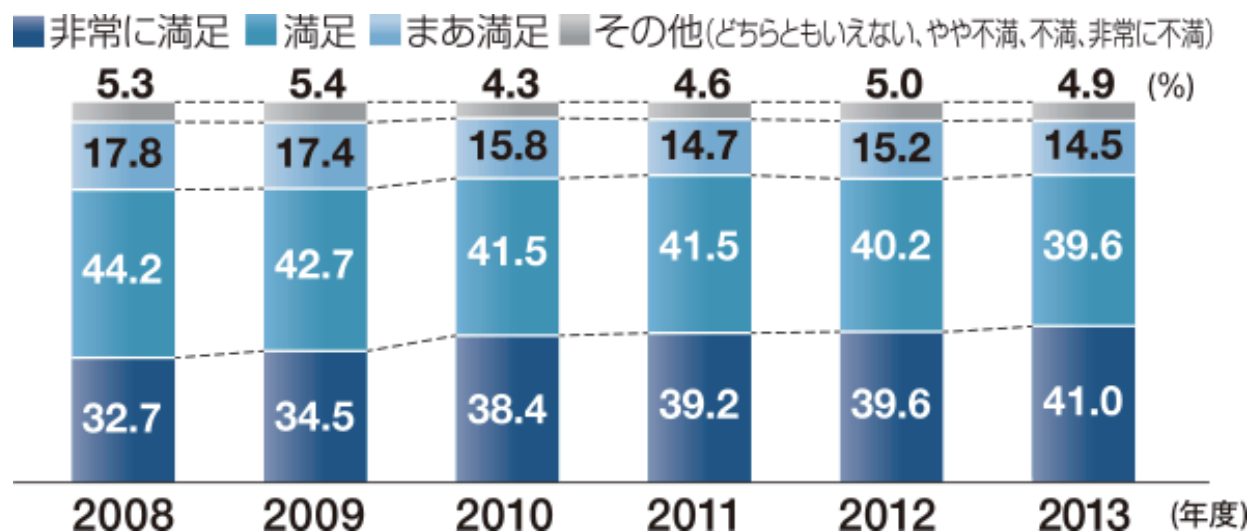
### ■【重点項目】1.お客様満足度のさらなる向上

お客様アンケートの結果分析などにより当社グループの生命線であるお客様満足度のさらなる向上を図ります。

### ■ 振り返りと今後

2013年度に初めて「非常に満足」が4割を超えました。徐々にではありますが、「非常に満足」の割合が増えており、これまでのお客様アンケート結果を踏まえた改善の取り組みが奏功しているものと考えています。但し、あくまで全体の4割のお客様に「非常に満足」とお答えいただいているに過ぎないのも実情です。お客様の年齢や家族構成ごとの分析をさらに進め、CS向上に生かします。

#### お客様アンケート満足度調査(7段階評価)





## ■【重点項目】2.サプライチェーンの強化

---

協力工事店、取引先の皆様とのコミュニケーションを深め、サプライチェーンにおける社会的責任を推進します。

### ■ 振り返りと今後

---

取引先各社の会社方針と積水ハウスの購買方針との整合性を図るため、取引先各社を対象に年2回「方針説明会」を開催しています。当社グループの経営概況などの説明とともに、資材のQCDE（「品質」「価格」「供給」「環境」）における目標設定と意見交換、取引先による改善事例発表を行っています。また、公平・公正な取引を行うため、1998年から「取引先評価」を実施しており、2009年からはサプライチェーンの体質改善に役立つよう評価結果を開示しています。評価は資材部と開発・生産部門が連携して168社（205事業部）を対象に実施し、定期的に評価項目や基準を見直しています。単なる評価にとどまらず、サプライチェーンにおけるPDCAをより実践的なものとし、具体的な改善行動につなげていくことを目的としています。そして、主要な木材建材メーカー約60社とは、調達情報を開示し合える関係構築に注力し、エシカル調達にも取り組んでいます。

2014年度も重点項目に掲げ、サプライチェーンとともにCO<sub>2</sub>排出量の削減、生物多様性の保全など地球環境にやさしい取り組みを一層推進していきます。

## ■【重点項目】3.海外でのCSRマネジメントの強化

---

国際事業の占める比率の上昇に伴い、海外におけるCSRマネジメントを強化し、現地でも必要とされる企業を目指します。

### ■ 振り返りと今後

---

国内で行っている危機管理を海外でも適用していこうと本社各部署を横断するワーキンググループを立ち上げ、議論を開始しました。引き続き、重点項目に掲げて取り組んでいきます。また、海外の関係会社が使用するエネルギーについても国内と同様に把握を始めています。

## CSR推進体制

## CSRマネジメントツール

「サステナブル・ビジョン」に基づく事業所経営ができているかどうかを確認し、事業所別にCSRへの取り組み意識や課題を可視化するため、「ガバナンス意識調査」を実施しています。

## 全社員にアンケートを実施し、五つの項目で指標化・分析しています

この調査は全社員にアンケートを実施し、五つの項目で指標化・分析するものです。「企業理念」、「ビジョン・戦略」、「社員の自律」、「職場風土」、「コンプライアンス」について各事業所の強み・弱みを把握し、サステナブル経営の施策を立案・実施することにより、風通しが良く、従業員がいきいきと働きパフォーマンスも高い職場づくりにつなげています。職責者研修のツールとして、また各事業所でグループ討議の題材とするなど、実践的活用が図られています。

## ガバナンス意識調査の五つの項目

1. 企業理念
2. ビジョン・戦略
3. 社員の自律
4. 職場風土
5. コンプライアンス

## CSR推進体制

## CSR委員会・社外委員からのコメント

CSRの重要方針の立案・推進と取り組みの検証を目的として、「CSR委員会」を3カ月に1回開催しています。同委員会では3人の社外委員から「社外からの目」で意見をいただき、委員である社内の役員とともに議論を重ねています。2013年度の議論を踏まえた、社外委員からのコメントを紹介します。

## 【関連項目】

> [CSR推進体制と組織マネジメント](#) (p.83)

## 住宅が持つ可能性に挑戦を



シャープ株式会社 元社長  
辻 晴雄

CSRの考え方や取り組みは、これまでの寄付や法令遵守などの基本的なものにとどまらず、さまざまな社会的な課題を企業の持つ力を使って解決することへと大きく変化しています。

お客様目線で「目配り・気配り・心配り」を実践し、感動を与える商品を作り、最高のサービスを提供するだけでなく、企業は自らの本業を通して、環境や少子高齢化などの課題解決に取り組むことが求められているのです。

積水ハウスは、「住宅」がその解決に導くことができるさまざまな社会的課題を既に見すえています。CSR経営のビジョンとして、社会にどんな価値を提供していくのか明確であり、社員にとっては士気やロイヤルティを高めることにつながります。そして、住宅メーカーの責任と覚悟、さらには可能性を感じます。

社会のニーズや期待に応えられなければ競争には勝てませんし、社会にとって新しい価値を提供しなければ成長はありません。全社員が社会的な課題の解決に挑戦し、新しい価値を提供することで、社会とともに持続可能な発展を目指すことを期待します。

## ■ CSR委員会でのコメントから

他社の不祥事事例を見ると経営トップの危機に対する感度が低いと思えてならない。経営トップにはいろいろな情報の中からリスクをかぎ分ける嗅覚が求められる。不作為の不祥事はいつ起こるかかわからない。そのためにも数多くの現場と接点を持ち、若手社員と対話し、社員の不満や現場の問題を拾い上げる努力が必要である。



甲南大学 特別客員教授  
加護野 忠男

最近の積水ハウスの動きを見ていると、リスク投資のよい循環が現れているように思えます。海外の住宅事業、ラグジュアリーホテル事業、タワーマンション事業—いずれも大きなリスクのある事業であり、失敗する企業も多い。だから参入する企業が少なく、利益が上がります。本業で高い利益が得られるからこそ、リスク投資の余裕も出てきます。このリスク投資はあまり競争がないので高い収益を生み出します。その収益をさらなるリスク投資に使うことができるという好循環にもつながります。

一方、この好循環は悪循環に陥るリスクも持っています。失敗に懲りてリスクを避けようとするから競争の激しい市場に入ってしまう、儲からないという負のスパイラルです。

悪循環に陥ることなく、好循環を維持させるための鍵は三つです。第1に、リスクを恐れないという姿勢。第2は、無駄なリスクを回避するためのリスク管理。攻めのための守りの強化です。第3は、競争対応の差別化ではなく顧客満足の追求です。

顧客創造のための基本から外れないという姿勢を積水ハウスに期待します。

### ■ CSR委員会でのコメントから

2014年度のCSR重点テーマは以下の2点と考える。一つは「賃上げ」。そのための生産性アップをどのように行っていくか。生産性アップによりCO<sub>2</sub>排出量を減らすこともできる。もう一つは「女性活用」である。部長クラスが何人いるかなど、近い将来問われることになるはずで、環境問題と同じくらいしっかり取り組んでいただきたい。

## 積水ハウスの安らぎを世界の人々に



弁護士  
加納 駿亮

「最後まで諦めない」—メダルでなくてもベストを尽くしたあの笑顔、ソチオリンピックに出場したフィギュアフリーの浅田真央選手の演技に、世界は一つになったような感動に包まれました。また、41歳のレジェンド・葛西紀明選手から15歳の銀メダリスト平野歩夢選手まで、日本の選手達の活躍も見事でした。4年に1度、世界最高レベルのアスリートが集い、鍛え抜かれた精神と肉体をもって1000分の1秒を競う真剣勝負の場・オリンピック、そこでは世界に一時代を画した日本の得意競技でさえも、次世代の選手層の育成と競技力の強化に遅れを取れば、一気に世界のレベルから置き去りにされる厳しい現実も見せつけられました。

積水ハウスは、CO<sub>2</sub>の削減、省エネ・創エネの追求でも極めて高レベルで、もうこれ以上は難しいという声もありそうです。しかし、目標を高く掲げ、「決して諦めない」で前進することが大切です。科学技術の進歩と併せ、この精神は次代を担う人材に引き継がれ、各部門が競い合っ、積水ハウス全体として活力を強め、企業価値を一層高めていくことでしょう。「積水ハウス、今、天高く羽ばたけ！」。

### ■ CSR委員会でのコメントから

住宅にIT技術が取り入れられていく中で、プラスの面もちろん多いが、マイナス面も看過してはならない。ITが正常に動いている時は便利でいいのだが、いったん乱れると大変な混乱を来す。貴重で高度な個人情報住宅に集積していく中で、これをどのように管理していくのか、初期段階である今のうちに問題点をクリアしておく必要性を感じる。

## コンプライアンス

## コンプライアンスの考え方

## 常時取り組むべき経営課題としてコンプライアンスを推進

当社は、コンプライアンスについて、「法令遵守にとどまらずCSRを念頭に置いたもの」ととらえ、「一時的なものではなく常時取り組むべき経営課題」として位置付けています。そこでCSR委員会のもとに副社長を部会長とする「コンプライアンス・リスクマネジメント部会」を設置。人事部、法務部など関係部署の職責部長を中心に約20人をメンバーとして3カ月に一度、議論を重ねています。

2013年度は、①秘密情報の漏えい防止に向けた取り組み ②業務適正化に向けた取り組み ③リスクマネジメント店長研修の実施 ④海外危機管理対策 等について重点的に審議しました。

また、コンプライアンス推進上の課題は、「営業部会」「生産部会」等の事業部門部会のもと、全国事業所が、事業所長の率先垂範によりその改善に取り組む、PDCAのサイクルを回す仕組みを作っています。今後も「コンプライアンス・リスクマネジメント部会」を中心にコンプライアンスを推進していきます。

## 【関連項目】

- > [CSR推進体制と組織マネジメント](#) (p.83)
- > [CSR方針と体制](#) (p.474)

## コンプライアンス

## コンプライアンス推進活動

## 役員・従業員が一体となってコンプライアンスを推進


コンプライアンスは一時的な取り組みではなく、常時取り組むべき経営課題です。当社では、役員および従業員が一丸となってコンプライアンスの徹底と推進を図るため、網羅的なコンプライアンス教育・研修体系を整備し、階層別・役割別の集合研修を実施しています。全従業員が受講する「各種業法 法令研修」では、2013年度は「秘密情報の管理」をテーマに、秘密情報管理の意義や秘密情報管理規則などについて理解を深めました。

また、毎年10月に積水ハウスグループ全体で実施する「企業倫理月間」では、2013年度は、業務の総点検を実施。ケーススタディーを題材にした職場での意見交換などにより、「真実・信頼」の姿勢に基づいた業務を一人ひとりが遂行することが風通しの良い職場づくりやCS向上につながることを再認識する機会としました。

さらに、「企業理念」に基づく従業員の行動のあり方について定めている「行動規範」を実践できるよう、その行動のあり方をまとめた「行動規範」実践カードを活用して、全従業員が「行動規範」の意味を明確かつイメージ豊かに把握し、それに基づく行動を実践しています。


今後も社会情勢や時代の変化に対応したコンプライアンス推進活動に取り組み、全社のコンプライアンス意識啓発に努めていきます。

**「行動規範」実践カード**



- お客様よりも会社や自分の都合を優先させていませんか？
- 常に会社の代表という意識を持って行動していますか？
- 法律、ルールに抵触した言動をとっていませんか？
- 法律、ルールを遵守するための知識向上に努めていますか？
- 自分の言動を家族や友人に胸を張って話すことができますか？
- 良くないことと知りながらやっていることはありませんか？
- 不安なことは遠慮なく周囲の人に相談していますか？
- 悪いことでも勇気をもって早期に正しく報告していますか？
- 周囲の人の良くない言動を見逃していませんか？

**リーダーのあなたは…**



- メンバーの成長を願い、愛情と厳しさを持って接していますか？
- メンバーが相談しやすい雰囲気を作っていますか？  
(言葉を遣らずじっくりと傾聴する、悪い報告でも頭ごなしに怒らない。)
- メンバーの気持ちを考えた言動をとっていますか？
- 自分の判断が周囲に大きく影響することを考えた言動をとっていますか？
- メンバーの業務が法律、ルールに抵触していないことを確認していますか？

◎自分へのメッセージ◎

## 主なコンプライアンス推進活動

- 役員、幹部、リーダーなど階層別、役割別の集合研修実施
- e-ラーニングによる研修
  - 「CSR・コンプライアンス」(新入社員)
  - 「CS・個人情報保護」(全従業員)
- 各種業法 法令研修の実施(全従業員)
- 「企業倫理月間」(10月)の取り組み
  - 業務総点検を実施(内部監査指摘事項への対応等)
  - ケーススタディーを活用した意見交換
  - 「行動規範」実践カードの活用
  - 企業倫理要項等遵守に係る「誓約書」の提出
- 「飲酒運転撲滅に係る誓約書」の提出
- 「ガバナンス意識調査」による事業所別コンプライアンス意識傾向の把握



## コンプライアンス

## 「企業倫理要項」の遵守

## 「企業倫理要項」に基づき、企業倫理を徹底しています

当社グループは、グループ各社が企業活動を進めるうえで、会社および役員、従業員が遵守すべき企業倫理に関する共通事項として、2003年10月に「積水ハウスグループ企業倫理要項」を制定・施行しました。

企業倫理要項の「3.お客様・取引先・競争会社との関係」では、適正取引の実施や下請法の遵守、接待・贈答の禁止など公正な取引の徹底について明記しています。

製品およびサービスの情報とラベリングに関する規制および自主規範としては、「1-2.法規範の遵守」「2-3.各種業法、関係法令の遵守」「3-8.適正な宣伝・広告」で明記し、全社でその遵守徹底に取り組んでいます。遵守のための意識啓発を繰り返し実施するとともに、未然に違反を防ぐ仕組みを導入し、定期的なチェックも実施しています。

「企業倫理要項」は、社会情勢の変化や企業活動の進展、グループ経営の観点などから、グループ全体への適用範囲の拡大や記載内容の改訂を適宜進めています。2010年には、事業のグローバル展開に対応する記述追加や環境に対する取り組みについての記述を充実するなどの改訂を実施しました。本改訂は、毎年10月に積水ハウスグループ全体で実施する「企業倫理月間」（2005年から開始、2013年で9年）に合わせて実施することで、より効果的に改訂内容を漏れなく全グループ従業員に周知することができました。当社グループの全役員、全従業員が「企業倫理要項等遵守に係る誓約書」を毎年提出する取り組みも実施しています。

今後もグループ一丸となり、企業倫理の徹底に取り組んでいきます。

## 積水ハウスグループ 企業倫理要項

## ■ 1.総則

## 1-1 目的

## 1-2 法規範の遵守

## ■ 2.社会との関係

## 2-1 サステナブル社会の実現への貢献

## 2-2 社会への貢献

## 2-3 各種業法、関係法令の遵守

## 2-4 寄付行為・政治献金規制

## 2-5 反社会的勢力との関係断絶

## 2-6 環境保全・保護

## 2-7 輸出入関連法令の遵守

### ■ 3.お客様・取引先・競争会社との関係

---

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 3-1 住宅等の安全性          | 3-5 不正競争の防止   |
| 3-2 適正な契約            | 3-6 接待・贈答     |
| 3-3 独占禁止法の遵守         | 3-7 個人情報の適正管理 |
| 3-4 購入先との適正取引、下請法の遵守 | 3-8 適正な宣伝・広告  |

### ■ 4.株主・投資家との関係

---

- 4-1 経営情報の開示
- 4-2 インサイダー取引の禁止

### ■ 5.従業員との関係

---

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 5-1 人権尊重・差別禁止    | 5-5 プライバシーの保護 |
| 5-2 セクシュアルハラスメント | 5-6 職場の安全衛生   |
| 5-3 パワーハラスメント    | 5-7 労働関係法の遵守  |
| 5-4 多様な価値観、個性の尊重 |               |

### ■ 6.会社・会社財産との関係

---

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 6-1 就業規則の遵守    | 6-5 企業秘密の管理      |
| 6-2 適正な会計処理等   | 6-6 会社資産の適切な使用   |
| 6-3 利益相反禁止     | 6-7 情報システムの適切な使用 |
| 6-4 政治・宗教活動の禁止 | 6-8 知的財産権の保護     |




### ■ 7.附則

---

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 7-1 本要項の適用範囲 | 7-4 相談・申告窓口 |
| 7-2 誓約書の提出   | 7-5 罰則      |
| 7-3 本要項の改廃   | 7-6 施行      |

#### 【関連項目】

---

- > [企業理念・行動規範](#) 
- > [企業行動指針\(PDF:81KB\)](#) 
- > [企業倫理要項\(PDF:185KB\)](#) 
- > [CSR方針と体制](#)

## 個人情報保護の取り組み

当社は、住宅展示場や分譲地の販売事務所など、多くの事業拠点でお客様の個人情報をお預かりしています。個人情報保護法に対応した体制を整備するとともに、定期的にeラーニングを実施するなど、従業員への教育研修を繰り返し実施し、お客様情報の管理を徹底しています。eラーニングにはテストも組み入れ、従業員の個人情報保護に関する知識の定着状況を把握しています。そして、執行役員であるCS推進部長を個人情報保護の統括責任者にするとともに専任部署「お客様情報相談室」を設置し、積和不動産グループ、積水ハウスリフォームを含むグループ全体で、個人情報保護法遵守に対応した体制を整備・管理しています。今後も、個人情報保護に関するeラーニングを中心に、個人情報の取り扱いについて繰り返し指導教育を行うとともに、個人情報保護に対する知識と意識を高め、事故防止に努めます。

また、国際事業を展開する海外においてもそれぞれの地域に応じた個人情報保護の取り組みを強化していきます。

万一、お客様情報の事故が発生した場合には、発生内容と今後の対応について当社ホームページでお知らせします。

## コンプライアンス

**内部通報システムと公益通報者の保護****従業員のコンプライアンス徹底を支援する「内部通報システム」を設置・運用**

当社では、従業員のコンプライアンス徹底を支援する制度として、グループの全従業員が利用できる内部通報システム「SCSシステム（積水ハウスグループ企業倫理ヘルプライン）」を設置しています。

法令に違反する行為や企業倫理に反する行為に直面した場合に、eメールあるいは本人限定受取郵便、担当者への電話を通じて、コンプライアンス事務局に通報できるシステムで、通報者のプライバシー保護や通報内容の守秘、通報を理由とした不利益な取り扱いの禁止などは、「ガイドライン」で明文化して運用しています。

その他、内部通報システムとして「セクハラホットライン」や、労務管理全般に関する相談を受け付ける「人事110番」を開設しています。

**「内部通報システム」の存在を周知しています**

従業員には内部通報システムを紹介する冊子を配布するとともに、イントラネットやeラーニング、ヒューマンリレーション研修などでも本システムの存在を告知しています。まずは職場内で話し合い、問題を解決するのが理想ですが、このようなシステムがあることを周知し、気兼ねなく相談できるように配慮することも重要と考えています。

**企業倫理意識の向上と風通しのよい職場づくりに注力します**

当社では毎年、全従業員を対象に「ガバナンス意識調査」を実施しています。法令の理解や企業倫理意識、職場環境等について定期的に調査することで、現状を把握。組織単位で意見交換の機会を設けながら、より風通しのよい職場づくりに注力し、最終的に内部通報システムの利用者がゼロとなることを目標に取り組んでいます。

コンプライアンス

## 公正な取引

### 下請取引と法規制について全従業員を対象に研修を実施

当社グループは、グループ各社が企業活動を進める上で、会社および役員、従業員が遵守すべき企業倫理に関する共通事項として2003年10月に「積水ハウスグループ企業倫理要項」を制定・施行しています。

その第3項で、「顧客・取引先・競争会社との関係」の項を設け、適正取引の実施や下請法の遵守、接待・贈答の禁止などについて明記しています。

また、内部統制チェック項目の一つに下請取引に関するチェック項目を設け、公正な取引が実施されていることを確認したり、全従業員が受講する「各種業法 法令研修」で、下請取引や法規制について理解を深めたりしています。

#### 【関連項目】

- > [「企業倫理要項」の遵守](#) (p.91)
- > [調達方針](#) (p.408)
- > [取引先とのコミュニケーション～サプライチェーン・マネジメント～](#) (p.407)

コンプライアンス

## 各種補助金の適正業務実施と適正運用

お客様が当社住宅を建築する際に活用することができる補助金制度を、遺漏なくタイムリーにお客様にご提案し、経済メリットをもれなく享受して戸建住宅や賃貸住宅をご建築いただくことができるよう社内ホームページを活用し、補助金制度に関する最新情報を従業員に告知しています。

また、補助金の申請・受給業務においては適正な手続きを行うため、当社独自の基幹業務管理システムにおいて補助金情報を管理する仕組みを設け、共有することで手続きの過誤等の発生を抑制しています。さらに、補助金業務担当者を選任したり、営業社員を対象に研修を実施したりするなどして、適正業務の徹底に努めています。

尚、当社は事業活動に係る種々の補助金について、適正運用を図っています。

### 【関連項目】

- > [CSR方針と体制](#) (p.474)
- > [CSR推進体制と組織マネジメント](#) (p.83)



ヒューマンリレーション・人権擁護

## ヒューマンリレーション推進体制

### 人権侵害を「しない・させない・ゆるさない」企業体質づくり

当社では、人権侵害を「しない・させない・ゆるさない」企業体質づくりをするために、1980年より同和問題をはじめ女性・在日外国人・障がい者問題などさまざまな人権問題に取り組んできました。

2010年11月に「ISO26000」が発行され、指針となる7原則の一つに「人権の尊重」が示されています。当社は海外にも事業展開しており、国際ルールの遵守、異文化の理解等も踏まえ、お互いの人権を認めあう風土をより浸透させるべく、注力しています。

### セクハラ・パワハラを中心に、メンタルヘルス問題にもテーマを拡充

人権問題の専任組織である法務部ヒューマンリレーション室が、当社の企業倫理要項にて定めているセクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、メンタルヘルス、コンプライアンス問題を中心に、全従業員が人権を自分自身の問題として気づき、考えを深めることを目的とした研修や、事業所単位でのグループ討議などを継続的に実施しています。また、全事業所に設置しているヒューマンリレーション推進委員会組織を中心に、従業員一人ひとりがコンプライアンスや企業倫理要項を正しく理解し、相手の期待に応えるよう実践する取り組みを進めています。

### 2013年度の取り組み

毎年、グループ会社を含め全従業員対象のヒューマンリレーション研修を実施し、人権啓発を行うと同時に、各組織内に潜在している様々な問題点を抽出して、従業員同士で議論できる場を提供しています。

2012年1月に厚生労働省から「職場のパワーハラスメント」の概念が発表されました。当社もハラスメント防止を目的に、2013年には営業現場のリーダーを対象にして、特に若手従業員への指導に関するマネジメント研修を実施しました。

ヒューマンリレーション室に相談窓口「セクハラホットライン」を設置していますが、各事業所にも相談窓口担当者を配置しています。2013年度は、その担当者と連携を深めることに主眼を置いて、エリアや組織単位で相談窓口担当者研修を実施しました。その結果として担当者を通じた相談・報告が増えてきています。

また、毎年12月4日～10日の「人権週間」に向けて募集する「人権標語」は2013年で30回目となり、従業員の家族からの応募を含めると2万1334点の応募がありました。

## これまでの取り組み

1980年	「人権擁護推進委員会」発足 従業員向けに人権擁護研修を開始(以後、毎年継続して組織的に取り組む)
1981年	社外講座「部落解放夏期講座(高野山研修)」に初参加(以後、継続して参加)
1984年	第1回「人権標語」社内募集を実施
1990年	「人権啓発レポート」を作成 従業員研修向けに社内で制作、以後毎年発行
1999年	セクハラホットラインの開設
2003年	人事部内に「人権推進室」(人権問題を取り扱う専任組織)を設置
2006年	「人権推進室」を法務部内に移し「ヒューマンリレーション室」に改組 組織変更に伴い「ヒューマンリレーション推進委員会」発足
2008年	グループ会社を含む全事業所にセクハラ・パワハラ相談窓口担当者を設置 「相談窓口担当者養成講座テキスト」を作成し、毎年育成研修を実施
2010年	グループ会社を含む全事業所の職責者が、自ら講師役を務める目的でヒューマンリレーション研修講師養成コースに参加
2014年	「セクハラホットライン」を「セクハラ・パワハラホットライン」に名称変更

## ヒューマンリレーション研修

### 企業理念の根本哲学「人間愛」を実践し、自らの生き方を学ぶために

一人ひとりの従業員がコンプライアンスおよび企業倫理要項を正しく理解し実践することによって、人権侵害を「しない・させない・ゆるさない」企業体質をつくるため、全従業員に対する必須研修として、年間プログラムに基づく「ヒューマンリレーション研修」を実施し、従業員は年間3時間以上、推進委員は年間6時間以上受講しています。研修後に職場における人権・労働に関する相談・意見などを含むレポートを受講者全員が提出することになっており、人権・労働に関する職場の現状を把握する一手段となっています。この研修は、企業理念の根本哲学である「人間愛」の実践でもあり、自らの生き方を学ぶことにつながります。

### 事例の研究・討議を通して各自の“気づき”を促しました

2013年度の研修は、当社も今後取り組みを推進していくテーマである「ダイバーシティ」に焦点を当て、その意義を理解し実践するための気づきを促すことを目的としました。「ダイバーシティ」の考え方を浸透させることで、職場内の人間関係に良い影響を与え、ハラスメントを防ぐとともに良好な職場環境を育むことを、視聴覚教材等を使用した研修カリキュラムで実施しました。それぞれの立場や考え方が違うことを認め合い、お互いを尊重しあえる関係性から生まれる新しい発見や成果につながることを討議の題材としました。

単なる啓発活動ではなく、これらのテーマを会社のリスクに直結する問題としてとらえ、問題の萌芽を徹底排除する方策や、知識・スキルを習得することを目的としました。実際の事例について事前学習として個人研究を課し、集合研修ではグループ討議のかたちで考えることによって、各自の問題意識に基づく意見交換が活発になされ、“気づき”を得ることができたと考えています。研修のリーダーを事業所の責任者が務めることで、業務との連動も図りました。また、従業員の人権に関する知識の習得、意識の定着状況を確認するため、研修を受講した全員が研修レポートを提出し、それを分析することで次年度以降の人権推進活動方針策定等に生かしています。

このほか、毎年8月に2泊3日でさまざまな角度から種々の人権問題について学ぶ「高野山夏期講座」(社外研修)を実施しています。全国の支店長、技術次長、工場幹部従業員から選抜された幹部従業員が受講しており、2013年度は26人が参加。累計受講者は1097人となりました。

### 互いを尊重できる職場づくりを目指した研修を実施していきます

今後は、現在の研修を次のような考えに基づいて、ブラッシュアップしていく考えです。

1. 自分自身としっかり向き合い、自分を認めると同時に他人も認めることで、働きやすい自由闊達な職場風土をつくるためのよりよいコミュニケーションを考える場となる研修とする。
2. 引き続き事業所の責任者が講師となり、自身の人権感覚を高めつつ、日常業務と連動した自分自身の問題として考える場となる研修を実施する。
3. 社内事案に基づく事例研究によって、人権問題をより身近なものとして感じられるようにし、一人ひとりの従業員がお互いを尊重し、企業理念の根本哲学である「人間愛」を常に意識し実践できるような研修とする。



ヒューマンリレーション研修の様子



ヒューマンリレーション研修で使用する冊子

## 研修体系

研修名称	対象者
マネジメント研修	職責者
ヒューマンリレーション全国推進委員研修	ヒューマンリレーション全国推進委員会委員
事業所推進委員研修	推進委員
従業員研修	全従業員
新入社員導入研修	新規採用になった従業員
社外研修(高野山夏期講座 ほか)	職責者等

## セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント相談窓口

### 企業の責務として、社会問題化するハラスメントの解決に取り組む

2007年4月に「改正男女雇用機会均等法」が施行され、事業主はセクシュアルハラスメントに関する相談窓口を設置し、適切に対応することが義務付けられました。また近年、職場内における立場を利用したいじめや嫌がらせも大きな社会問題となっており、2012年1月に厚生労働省は「職場のパワーハラスメント」の概念を発表しました。当社では、本社に専任部署「セクハラ・パワハラホットライン」を設置し、こうした問題に対応する体制を整備して企業の責務として問題解決に取り組んでいます。

### 当事者、協力者が不利益を被ることがないように保障することを周知徹底

当社グループでは、企業理念や企業倫理要項を記載した小冊子を全従業員に配布し、本相談窓口についても紹介しています。相談される当事者はもちろん、事案解決に協力した従業員が不利益を被ることがないように保障することも記載して、全従業員に周知徹底しています。

### これまでの取り組み

<p><b>1999年</b></p>	<p><b>「セクハラホットライン」を設置</b></p> <p>1999年4月、セクシュアルハラスメントに関して、すべての従業員を対象に相談や質問に対応する窓口として「セクハラホットライン」を設置。現在は、ヒューマンリレーション室の相談員（女性担当者を含む）がセクハラのみならず、職場の人間関係等あらゆる人権問題に対応しています。相談は専用のフリーダイヤルおよびEメールで受け付け、相談者のプライバシー保護を明文化しています。</p> <p><b>さまざまな媒体で「セクハラホットライン」を従業員へ周知</b></p> <p>「セクハラホットライン」をはじめとする相談窓口については、全従業員に配布している企業理念小冊子やヒューマンリレーション研修テキスト、社内掲示している人権標語ポスター、イントラネット等、さまざまな媒体を通して、従業員への周知に努めています。全従業員の「セクハラホットライン」に対する認知度は高く、さまざまな人権問題に関する相談が寄せられています。</p>
<p><b>2005年度</b></p>	<p><b>「人事110番」を設置</b></p> <p>2005年5月から、労務管理全般に関する相談窓口として、人事部内に「人事110番」を設置。Eメールによる相談に対応しています。</p>
<p><b>2008年度</b></p>	<p><b>グループ会社を含む全事業所にセクハラ・パワハラ相談窓口担当者を設置</b></p> <p>「相談窓口担当者養成講座テキスト」を作成し、毎年育成研修を実施。研修を実施してからは、事業所の相談窓口担当者への相談も増えています。</p>

## リスクマネジメント

## リスクマネジメント体制

## 「コンプライアンス・リスクマネジメント部会」を中心としたリスクマネジメント体制

当社では、企業の社会的信頼をき損する可能性のあるリスクを把握・管理し、それらに対処するために、CSR委員会のもとに設置した「コンプライアンス・リスクマネジメント部会」を中心に、グループ全体を対象にしたリスクマネジメント体制を整えています。

2013年度は、①秘密情報の漏えい防止に向けた取り組み ②業務適正化に向けた取り組み ③リスクマネジメント店長研修の実施 ④海外危機管理対策 等について重点的に審議しました。

コンプライアンスや環境リスク、住宅メーカーにとって重要なリスクである品質など、専門テーマごとの取り組みを基本とし、事業部門部会と連携した従業員教育にも取り組んでいます。全従業員が毎年受講する法令研修では、2013年度は「秘密情報の管理」をテーマに、秘密情報管理の意義や秘密情報管理規則などについて理解を深めました。また、リスクの洗い出し調査の結果、重要と判断したリスク(例えば建築士法、建設業法などの建築関係法令遵守)については専任プロジェクトを組織し、遵法を徹底する取り組みを継続しています。営業部門については専門部署による内部監査、事業所のセルフチェック、本社のモニタリングの三位一体の取り組みでリスク管理をしています。

グループ会社についても、工事にかかわる協力会社の責任者を対象とした研修にリスク管理を含めるなど、グループ一丸となって、リスクマネジメント体制の強化とリスク管理意識の向上に取り組んでいます。

今後も「コンプライアンス・リスクマネジメント部会」を中心にリスクマネジメント体制のさらなる充実を図っていきます。

## リスクごとに低減のための取り組みを徹底しました

## 品質に関するリスク低減

当社は、構造にかかわる部材はすべて自社工場で生産することで品質管理を徹底しています。また、第二の生産現場ともいえる建築現場では、施工を担当する100%出資子会社「積和建設グループ(全国19社)」および協力工事店と連携して施工管理を徹底することで、品質リスクの発生を予防しています。

## 環境に関するリスク低減

2011年に全国導入したICタグの効果的運用による建築廃棄物を徹底管理するシステムを活用し、事業が環境に及ぼすリスク低減に努めています。また、土壌汚染や自然災害などについてもリスクを把握し、コントロールする体制を整えています。

## コンプライアンスに関するリスク低減

当社グループの事業は、宅地建物取引業法、建設業法、建築士法などに基づく許認可を受けています。また建築、土地に関する法令をはじめ労働、環境その他事業の遂行に関連する各種法令に則り事業を展開しています。これらの法令に違反することがないように、コンプライアンス徹底にグループ全体で取り組んでいます。



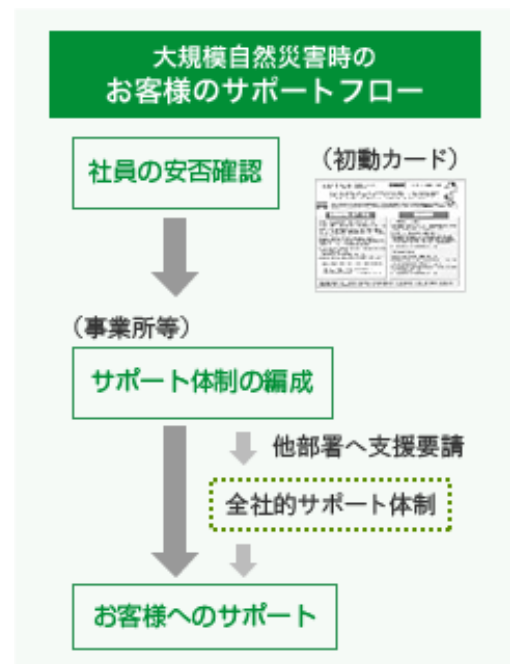
## リスクマネジメント

## 自然災害発生時の対応

## 自然災害発生時の初動対応の迅速化を目指して

当社は、自然災害によって発生が想定されるリスクに対応するため、全社的な方針・方策を規定した「自然災害対策アクションプログラム」を2004年8月に制定しました。当社では、災害発生時、お客様の生活を元の状態に迅速に復旧させることが企業としての役割と考えています。しかしながら、大規模自然災害などの予期せぬ事態が生じた場合には、通常の業務体制では対応できないケースが考えられます。そこで、大規模自然災害に備えて、全社的なサポート体制を充実させておく必要があります。その基本となるのが、災害発生時に被災地域の社員や家族の安全確認・被災状況を早急に把握することであり、これによって事業所のサポート体制の編成や全国的な支援要請を早め、お客様サポートの迅速化が可能となります。


2011年3月の東日本大震災においても、地震発生後すぐ、本社に社長をトップとした対策本部を、被災エリア9か所に現地対策本部を設置し、情報指示系統の一元化を図りました。地震発生後3時間後には静岡工場の備蓄物資を東北営業本部現地対策本部に輸送、グループ全従業員の安否を4日後に確認し、お客様の安否確認および対応ができる初動活動体制を迅速に整えることができました。



## BCPの策定について

復旧に重きを置いた従来のガイドラインを改訂し、事業活動の継続を視野に入れて規定した営業本部・事業本部版「災害マニュアル」を2013年2月にリリースし、運用を開始しました。また自然災害発生時の初動カードを改訂し、全従業員に常時携帯を呼びかけ、防災とボランティア週間(1月15日～21日)中に初動カードに記載されている「災害用伝言板サービス」の訓練をグループ全事業所で実施しました。

## 【関連項目】

- > [東日本大震災における、積水ハウスグループの活動についてのご報告\(PDF: 1.1MB\)](#) 
- > [「住宅防災」の考え方 \(p.304\)](#)
- > [災害時における地域との協働 \(p.372\)](#)

## リスクマネジメント

## 廃棄物処理に関するリスクへの対応

## 廃棄物管理と不法投棄防止のためのしくみ

廃棄物処理法※1では、事業活動に伴い産業廃棄物を排出する事業者(排出事業者)は、他人(廃棄物処理業者等)に廃棄物の処理を委託する場合、産業廃棄物管理票(マニフェスト)の使用が義務付けられています(マニフェスト制度)。当社は、マニフェスト制度の義務化に先立つ1991年に廃棄物適正処理システムを立ち上げ、高い水準での廃棄物処理管理を行える体制を築いてきました。

さらに、排出事業者として、不法投棄など不適正処理のトラブルに巻き込まれるリスクを軽減させるためには、優良な廃棄物処理業者の協力を得ることが最も重要と考え、業者選択の基準を定めたガイドラインを作成し、委託の可否を客観的に判断できるよう基準を定め、業者との良好な関係のもと廃棄物の適正処理を推進しています。

また、社員への教育も重視し、廃棄物についての基礎知識や処理委託契約書の作成、建設廃棄物(特定建設資材に限る)のリサイクルを義務付けた建設リサイクル法など、正しい知識による廃棄物の適正処理を促進させるために各種マニュアルを作成し、研修等を通じて周知を図っています※2。

## ※1 廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)

廃棄物の定義や処理責任の所在、処理方法・処理施設・処理業の基準などを定めた法律。

## ※2 2013年度の研修実績:研修回数述べ30回、総受講者数述べ600人。積水ハウスグループを対象。

## ■ 廃棄物の基礎知識習得や業務等目的別にマニュアルを策定



## ■ お客様向けに解体工事の重要性を知って頂くための読み物を発刊



## ■ 社員向け研修

(写真は、積和建設四国(株)で実施した産廃実務研修の様子)



## リスクマネジメント

## アスベスト問題への対応

アスベストは安定した性質で高い不燃性、断熱性、耐熱性を持つことから、かつては建材をはじめブレーキパッドや化粧品に至るまで広範囲に使用されていました。しかし、肺に吸い込むと石綿肺、肺がん、中皮腫などを引き起こす危険性が明らかになり、現在は使用されていません。

当社は法規制に先駆けて代替材料への変更を進め、現在はアスベスト含有建材を使用しておりません。

過去に当社が使用していたアスベストを含む主な建材は下表の通りで、すべて「非飛散性アスベスト製品」です。これらはアスベストが建材中に固定されているため、日常生活で建材由来のアスベストを吸い込むことはありません。

なお、住宅の解体工事に際しては、石綿障害予防規則および建設リサイクル法に則した解体方法を徹底し、アスベスト飛散防止措置を講じています。また、アスベスト飛散の気中濃度測定も自主的に行い、大気汚染防止法に定める敷地境界での基準(10本/1リットル)および石綿障害予防規則で定められた作業者の個人暴露基準(0.15本/cm<sup>2</sup>)を超えないことを確認しています。

当社が過去に使用していたアスベストを含む主な建材

部位	建材名	主な用途	石綿含有製造時期
内装	アスベール	キッチン・バスコアの壁	'94年9月以前
	Fパネル	外壁材	'00年1月以前
	SGパネル	外壁材	'95年7月以前
外装	サイディング類	外壁材	'89年2月以前
	アスロック	アパート廊下、階段	'99年4月以前
	軒裏石綿板・サイディング	軒天仕上げ材	'95年7月以前
屋根	カラーベスト・フルベスト	屋根葺き材	'01年10月以前
	かわらU、かわらCITY	屋根葺き材	'90年7月以前

## リスクマネジメント

## 解体工事に係る環境関連法への対応

## フロンなどを適切に回収できるように、建物所有者をサポート

解体工事では、建設廃棄物以外にも、生活で不要となった物が併せて処理されることがあります。

建設廃棄物のような産業廃棄物は、廃棄物処理法に則って処理を行いますが、一部の不要品の処理も特定の法律に則って適切に処理を行わなければなりません。家電リサイクル法で指定された家電製品は、排出者（所有者）にリサイクルのための費用を負担する役割が課せられ、リサイクルが確実にされるよう法整備されています。

また、フロンは、エアコン・電気冷蔵庫の冷媒や断熱材の発泡剤など、さまざまな用途に長らく使用されてきましたが、大気中に放出されると、成層圏まで達し、オゾン層を破壊することが判明したため、現在では国際的に使用が規制されています。

国内においては、フロン回収・破壊法で定められた業務用冷凍空調機器（エアコンや冷蔵庫など）を処分する場合は、その所有者がフロン類回収業者に依頼、引き渡し、費用を負担することで適正に処理を行わなければならないことが定められています。

当社では解体工事に伴って発生する、これらの法で指定された機器の有無を事前に確認し、建物所有者の責務をお伝えし、法に合った確な処理が行えるように資料等を用いて事前に説明し、サポートしています。

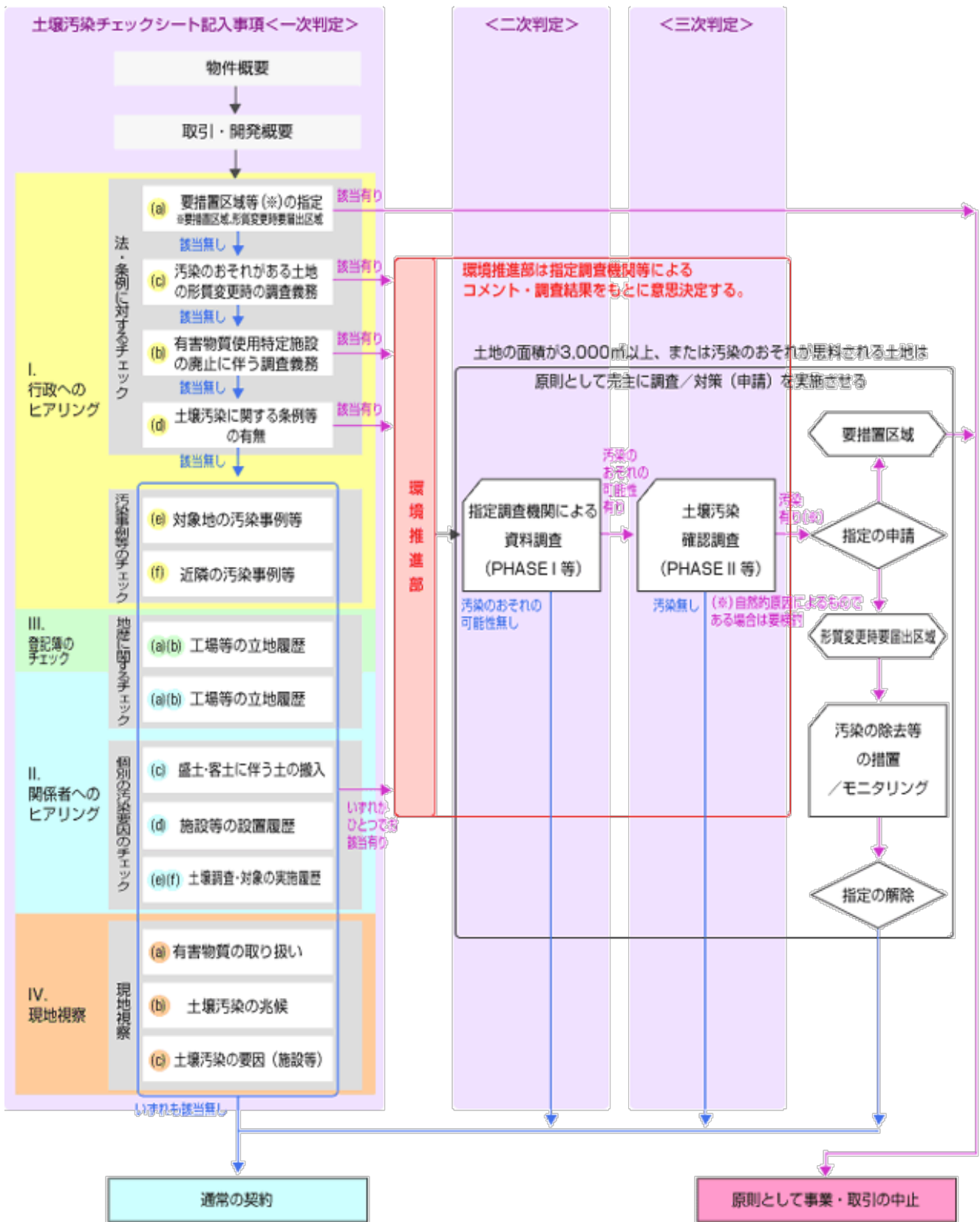
また、社内でも環境関連法の研修などを通じ、フロン回収に関する法律について従業員の知識向上を図っており、さらに充実したサポート体制の確立を目指しています。



解体工事の事前説明用資料







土壌汚染対策 確認フロー

## 環境マネジメント

## 環境マネジメントの推進・方針

当社では会長兼CEOを委員長とし、社内委員（社長以下、全取締役と執行役員の一部）のほか、社外有識者3人を社外委員とする「CSR委員会」において、環境マネジメントを含む全社的なCSR活動推進を統括しています。

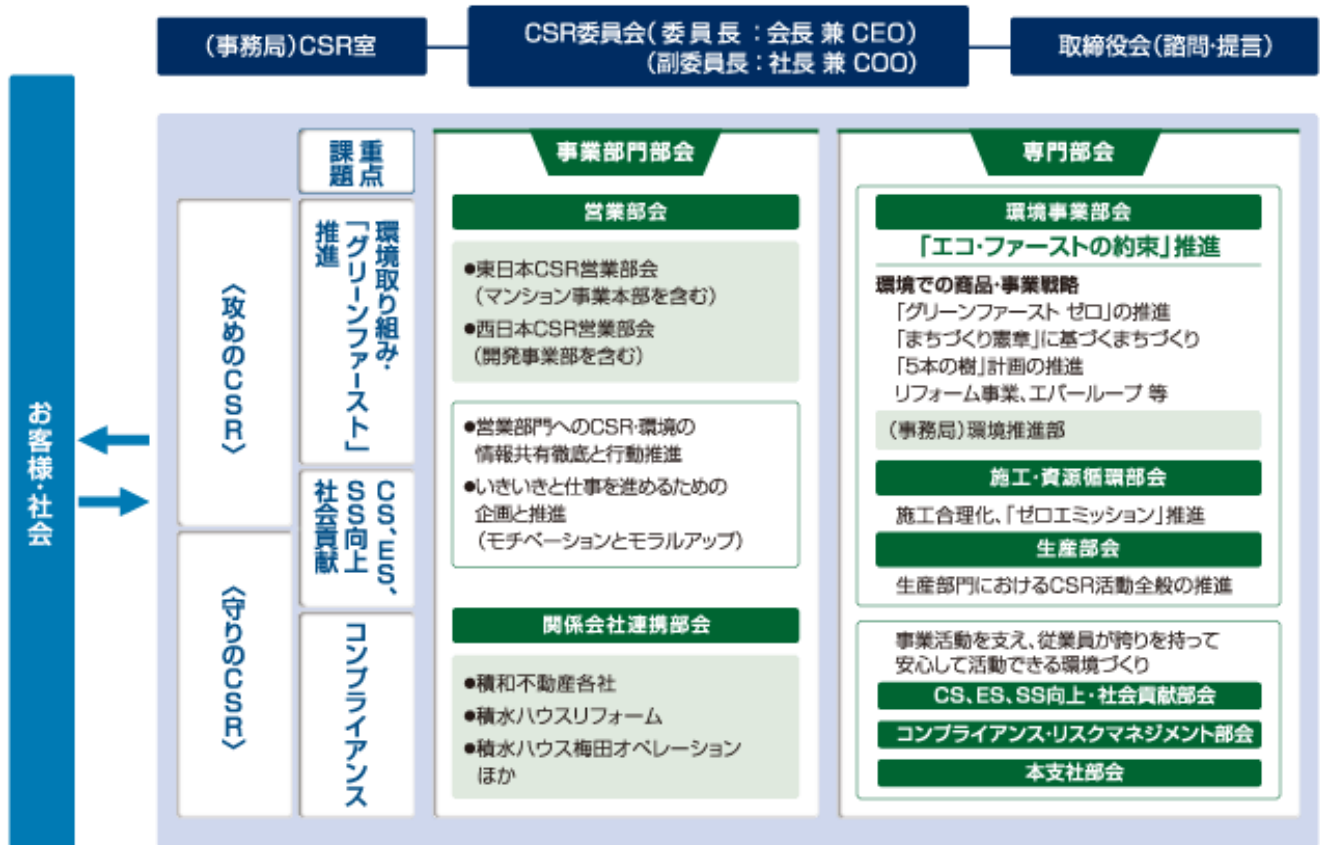
このCSR委員会の下部組織として、関連部署によって全社横断的視点で環境保全活動の企画推進を行う専門部会を設置し、環境経営の観点からより迅速かつ強力な意思決定が可能な体制を整えています。現在、「グリーンファースト」の展開を中心に「エコ・ファーストの3つの約束」を事業活動を通じて推進する「環境事業部会」、施工に伴う環境負荷を低減しゼロエミッションなどを進める「施工・資源循環部会」、生産部門を対象とした「生産部会」の3つの部会があります。各部会では所属各部署のトップをメンバーとして全社横断的に事業への展開を進めています。

これらの専門部会と連携して、事業部門部会「営業部会」「関係会社連携部会」とそれらの傘下に各事業所の委員会等を設け、全事業所での取り組み浸透のスピードアップと進捗管理、活動のレベル向上を図っています。2013年度はこれまで蓄積してきた「グリーンファースト」をさらに進化させ、2013年4月に販売を開始した「グリーンファースト ゼロ」の普及・推進を図りました。これは、「アルゴンガス封入複層ガラス」「高断熱サッシ」などによる「ハイグレード断熱仕様」に加え、「高効率エアコン」「LED照明」などの省エネルギー設備や、日照・通風配慮設計などのパッシブ技術を採用。高い断熱性と最新の省エネルギー設備で消費エネルギーを大幅に削減し、太陽電池や燃料電池の創エネルギーで「住まい心地向上」と「エネルギー収支ゼロ」の両立を目指したスマートハウスです。

従来から取り組みを進めてきた安全・安心を提供する「大臣認定制震システム『シーカス』」、「健康」をテーマとした「空気環境配慮仕様『エアキス』」の普及促進、「5本の樹」計画を通じたエクステリア事業の推進にも引き続き取り組みました。今後も、このような環境推進体制のもとで個々の取り組みをさらに改善し、経営施策に直接反映することにより持続可能な社会づくりの推進を加速します。

### ■ 取り組みの企画推進を行う専門部会

- 環境事業部会：商品や事業戦略における環境対策と展開
- 施工・資源循環部会：建設廃棄物のゼロエミッション・資源循環の取り組み
- 生産部会：生産部門における負荷削減などの取り組み





## 環境マネジメント

## ISO14001認証取得

## 全生産部門での統合認証(2009)に基づく継続運用中

当社は、すべての工場において、2001年度中にISO14001の認証取得を完了し、これまで環境マネジメントシステムを運用してきました。これを、重複したシステムを簡素化して管理の効率化を図るとともに、経費を削減することを目的にして、2009年に工場ごとの個別認証から全生産部門での統合認証へと切り替え、運用を継続しています。

## 詳細情報

組織名称	積水ハウス株式会社 生産部門(東北工場、関東工場、静岡工場[高砂BBセンターを除く]、兵庫工場、山口工場)
認証機関名	一般財団法人 日本建築センターシステム審査部(BCJ-SAR)
認証機関登録番号	BCJ-EMS-0010
認証日	2000年7月31日
有効期限	2015年7月30日
認証規格	JIS Q 14001:2004 ( ISO 14001:2004 )
産業分類	6.木材、木製品、16.コンクリート、セメント、石灰、石こう他、17.基礎金属、加工金属製品
所在地	山口県山口市鑄銭司5000
登録範囲	積水ハウス株式会社 生産部門(東北工場、関東工場、静岡工場、兵庫工場、山口工場)  【関連事業所】 東北工場(工業化住宅部材の製造及び出荷) 関東工場(工業化住宅部材の製造及び出荷) 静岡工場(工業化住宅部材の製造及び出荷) 静岡工場関西物流センター(栗東) 静岡工場関西物流センター 兵庫工場(工業化住宅部材の製造及び出荷) 山口工場(工業化住宅部材の製造及び出荷)

環境マネジメント

## 環境に関する法令の遵守状況

環境に関わる法規制の違反はありませんでした。

2013年度、重要な環境関連法規制等の違反はありませんでした。また、工場においても周辺環境に影響を与えた漏出事故は発生していません。

## 環境マネジメント

## 従業員への環境取り組みの研修（一般教育・研修）

## グリーンファースト研修

一般的には、従業員の「環境」についての知識の習熟が業務と直接関係の無い業種も少なくありません。しかし、住宅業界の場合、提供する商品である住宅が居住段階の使用エネルギーを通じて温暖化対策としても大きな影響を与えるために、その建築・購入をご検討されるお客様に対して、環境配慮された自社の住宅をご紹介する場合に、十分な環境の知識を持っていることが大変重要になります。

そのために、当社ではイントラネットでの環境情報の共有に加えて、実際に「グリーンファースト研修※」と名付けた集合研修を行い、受講者や地域の状況に応じて、また、技術等の変化も踏まえて、継続してきめ細かいサポートを行っています。各地で、数度の受講をした営業社員がさらに内務の従業員に対して研修を実施するというスタイルで浸透を図るケースも増えています。

2013年度は、従来の「グリーンファースト研修」を踏まえ、さらにネット・ゼロ・エネルギーハウス（ZEH）を先取りして2013年4月から販売を開始した「グリーンファースト ゼロ」についての研修を充実させました。実施回数は累計94回となり、約4700人が受講しました。

※「グリーンファースト」は2009年からスタートした積水ハウスの環境配慮型住宅のブランドネームで高断熱・気密住宅をベースに、太陽光発電システムや燃料電池を備えた住宅です。この「グリーンファースト」の浸透に際しては、CO<sub>2</sub>排出量削減だけでなく、植栽による生態系保全など、環境に配慮された住宅がお客様にもたらす「快適性」「経済性」を、お客様にご説明をさせていただけるようになることを重視し、「グリーンファースト」研修を2009年度より実施しています。最新の情報や商品戦略などを加味しながら繰り返し実施しており、受講者は2013年度までで累計370回を超え、機能向上や制度変更を反映して繰り返し研修を重ねることで社員のレベル向上を図っており、営業職中心にのべ1万6400人が受講しています。

## e-ラーニングによる「サステナビリティレポート」研修

「グリーンファースト研修」でお客様にお伝えするための環境学習だけにとどまらず、従業員にとっても、自社の持続可能な社会構築に対する責任とその取り組み内容を知ることは、自社に対する誇りを再認識し、日常の暮らしの中に「環境・CSR」について配慮を深め行動を考える重要な機会となります。

近時はwebに環境・CSR情報を集約し、社員にはその利用を勧める企業も増えていますが、一覧性の高い冊子を常に手元に置き閲覧を可能にするメリットは高いため、当社では2006年から、グループ企業を含めたすべての従業員に対して「サステナビリティレポート」を一冊ずつ配布しています。また、その内容についてe-ラーニングで理解度を確認できるシステムを構築し、原則としてすべての従業員にその受講を義務付けています。重要な項目についてテスト形式の理解度チェックや図解を使って、わかりやすくその理解を促す内容で、2012年度も原則としてグループ企業を含む全ての従業員がこれを受講しています。

## 専門研修(専門教育・研修)

当社においても、生産部門において認証取得しているISO14001などに基づく有資格者の専門教育はもちろん、各事業所においても、事業継続において重要な環境課題である「建築廃棄物の適正処理」、「土地購入に際しての土壌汚染問題への対応」などに関しては、これにかかわる従業員に対してより詳しい専門教育を実施しています。2013年度は、各事業所の建設廃棄物実務担当者を集めた研修を地域ごとに28回実施しています。

特に、廃棄物の適正処理に関しては、建設業界におけるこの問題の重要性に鑑みて、さらに広い範囲でこのリスクに対する問題意識を共有するために、イラストや写真を多用した読みやすい資料を作って関係会社等も含めた関係者での活用を指導しています。



2013年度の『建設廃棄物処理実務担当者』研修用テキスト類

これらの研修は、高度な内容を伴うために、実際に地域ごとに担当者を集めて本社の専門職社員が時間をかけて、実務的な失敗事例や陥りやすい問題点などまで示して丁寧な研修を行っています。また、新たにそれにかんする業務に関わる新入社員や中途入社社員に対しても集合研修によってその徹底を図っています。

## エコ・ファーストの約束

## 「エコ・ファーストの約束」進捗報告

## 「エコ・ファースト企業」としての約束を着実に実行していきます

当社は2008年6月に環境省から「エコ・ファースト企業」として認定を受け、その後、着実に取り組みを進めてきました。2012年3月には、社会情勢の変化や取り組みの進捗を反映し、「温暖化防止」「生態系保全」「資源循環」という大きな枠組みはそのままに「エコ・ファーストの約束」を更新しました。約束実現に向けた2013年度の取り組みについて進捗を報告します。

## 「エコ・ファーストの約束」

## ■ 環境先進企業としての地球環境保全の取り組み

積水ハウス株式会社と積水ハウスグループ各社は、最も多くの住宅を供給する企業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、環境配慮を通じ積極的に社会に貢献するため、以下の取り組みを進めてまいります。

■ 1. 家庭部門及び事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量削減を積極的に推進します

- 快適でエコな暮らしの提案と環境配慮型住宅の普及を通じて、特に遅れている家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量削減を進め、温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25」に取り組みます。
- 省エネ+創エネで生活時のCO<sub>2</sub>排出量を削減する環境配慮型住宅「グリーンファースト」とCO<sub>2</sub>排出量差し引きほぼゼロとする「グリーンファースト プレミアム」の普及を図り、快適性と経済性、環境配慮を追求した生活を提案します。さらに蓄エネを加えたスマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」の普及を進め、電気自動車と連携するシステムの開発と普及に努めます。2030年までに新築戸建住宅でのCO<sub>2</sub>差引ゼロ(CO<sub>2</sub>オフ住宅)の標準化を目指します。
- 次世代省エネルギー仕様を上回る断熱性能と高効率給湯器を全ての新築戸建住宅の標準仕様とし、新たなライフスタイル提案によるLED照明の普及に努め、省エネ性能の向上を図ります。
- 周囲のまちなみに配慮した瓦型太陽光発電システムや断熱改修などを対象に自社独自の補助金制度で一部費用を当社が負担することにより、搭載及び実施を促進します。
- 家庭用燃料電池などの創エネ設備の導入を積極的に推進します。
- 賃貸住宅においても環境配慮と安定経営を両立する太陽光発電搭載の「シャーマゾン グリーンファースト」の普及を図ります。
- 累計200万戸以上の当社既築住宅及び他社建築物への太陽光発電システムや高効率給湯器の導入、断熱改修などの省エネリフォームを積極的に推進します。
- 「スマートハウス」や「スマートグリッド」などの研究と実証実験を進め、各地のまちなみづくりににおいても積極的に導入し、低炭素社会と次世代の住宅やまちづくりの実現を目指します。

- 「いえコロジー」セミナーなど、暮らし方による節電・省エネ生活普及教育活動を積極的に推進します。
- 生産工場やオフィス、物流などにおける事業活動からのCO<sub>2</sub>排出量の削減について、(社)プレハブ建築協会をはじめとする住宅業界で定めた目標値を上回るよう積極的に推進し、節電社会の実現に貢献します。

## ■ 2. 生態系ネットワークの復活を積極的に推進します

- 生物多様性の保全のため、鳥や蝶などが好む、それぞれの地域に根ざした日本古来の自生種・在来種を選定し植樹する「5本の樹」計画を住宅の庭づくりやまちづくりを通して積極的に推進します。エクステリア事業を強化し、年間100万本の植樹を継続目標とします。緑豊かな環境を維持するコミュニティづくりを支援します。
- 「木材調達ガイドライン」10の指針により違法伐採や自然生態系の喪失を防ぐとともに産出地域経済の自立にも配慮し、サプライヤーやNGOと協働して循環型の木材利用を積極的に推進します。
- 環境教育プログラム「Dr.フォレストからの手紙」や「いきもの調査」などの生物多様性についての啓発及び調査、評価活動を積極的に推進します。
- 「積水ハウスの森」をはじめとする森林保全活動に積極的に取り組みます。

## ■ 3. 資源循環の取り組みを徹底的に推進します

- 生産・施工・アフターメンテナンス・リフォーム時のゼロエミッション(埋め立てゼロ、熱回収を伴わない焼却ゼロ)を継続するとともにマテリアルリサイクル率90%を目指します。
- リフォームに伴う解体工事のゼロエミッションを継続し、木造住宅の解体工事に伴う廃材のゼロエミッション化を積極的に推進します。
- 「ICタグ」や「電子Manifesto」などを活用した次世代型ゼロエミッションシステムにより、トレーサビリティを強化し、廃棄物発生量のさらなる削減などゼロエミッションのレベルアップを図ります。
- 住宅を長く大切に使うための独自の保証延長システム「ユートラスシステム」を積極的に推進します。
- 住宅ストックの有効活用と住宅の長寿命化を目指す積水ハウスの再生住宅「エバーループ」を積極的に推進し、第3の市場を開拓します。

積水ハウス株式会社は、上記取り組みの推進状況を確認するとともに、その結果について環境省への報告及びサステナビリティレポート(環境・CSRの報告書)による公表を行ってまいります。

## 2013年度の主な取り組み

### ■ 1. 家庭部門及び事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量削減を積極的に推進します



「グリーンファースト ゼロ」の発売



「スマートコモンシティ」を  
全国16カ所に展開



全国5工場に合計6.7MWの  
メガソーラーを設置



## ■ 2.生態系ネットワークの復活を積極的に推進します



「5本の樹」計画の推進  
累計1000万本達成



「いきもの調査」の実施



「木材調達ガイドライン」の運用

## ■ 3. 資源循環の取り組みを徹底的に推進します



次世代型ゼロエミッション  
システムの運用



「長期優良住宅」認定取得の推進



オーナー住宅買取再生事業  
「エバーループ」の推進

### 環境省が展開する気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同



エコ・ファースト推進協議会の総会で石原環境大臣(一番左)に説明をする当社和田会長(右から二人目)



「グリーンファースト」で、  
低炭素社会へ。  
気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています。

「Fun to Share」は、2014年3月26日に環境省が展開を開始した、豊かな低炭素社会の実現を目指すプロジェクトです。日本全国、各地域に存在する豊かな低炭素社会づくりにつながる「情報・技術・知恵」を企業・団体、地域、国民一人ひとりがつながってみんなでシェアし、連鎖的に広げていくことで、世界に誇れる日本初の「ライフスタイル・イノベーション」を起こしていくことを目指したキャンペーンです。

2014年4月14日に開催されたエコ・ファースト推進協議会の総会の場で、当社和田会長から石原環境大臣に「Fun to Share」への賛同を宣言しました。

#### 【関連項目】

- ＞ [フェアウッド調達](#)
- ＞ [長期優良住宅と品確法](#)
- ＞ [「5本の樹」いきもの調査](#)
- ＞ [優良ストック住宅\(スムストック\)の普及を推進](#)
- ＞ [新築施工現場のリデュース](#)



## エコ・ファーストの約束

## 「エコ・ファースト推進協議会」の活動への参加

## 「エコ・ファースト企業」としての約束を着実に実行していきます

2009年12月9日、環境省認定の「エコ・ファースト企業」が、自主的に運営・組織する「エコ・ファースト推進協議会」が設立されました。以来、加盟社数は「エコ・ファースト企業」認定の拡大とともに増加し、2014年2月1日現在、39社となっています。本協議会は、環境行政や「エコ・ファースト企業」同士の連携などに積極的に取り組んでおり、当社も幹事企業の一社として積極的に参加しています。2013年2月の情報交換会では、会場として総合住宅研究所(京都府)を提供し、「グリーンウォッシュをどのように防いでいくか」というテーマでNPO法人代表理事による講義を受け、グループ討議を行いました。また、NPOとの協働をテーマに横浜で開催された情報交換会では、先進事例としてCSR室長が当社取り組みを発表しました。その他、本協議会で取り組み始めて4年目となる「エコとわざ」コンクールの開催に協力、2013年は国連の定めた国際水協力年であることから「水と環境、水の恵み、水の大切さ」を表現する創作ことわざを小中学生から募集して、「エコ・ファースト制度」やエコ・ファースト推進協議会の認知度向上による環境ブランド力強化に努めました。

尚、2014年4月から、「エコ・ファースト推進協議会」の議長会社を務めることとなり(議長:当社会長 和田勇)、環境先進企業を牽引していく立場となりました。環境省や他の「エコ・ファースト企業」と連携して、協議会活動を盛り上げていきます。

## 環境大臣賞を新設して 第4回「エコとわざ」コンクールを開催

エコ・ファースト推進協議会は、環境省の後援、全国小中学校環境教育研究会の協力を得て、6月1日から9月10日まで、全国の小中学生から「水と環境、水の恵み、水の大切さ」を表現する創作ことわざ「エコとわざ」を募集しました。2013年は国連の定めた「国際水協力年」であり、地球規模での温暖化加速や環境破壊により水不足・水質汚染が懸念されることから、「エコとわざ」を小中学生に考えてもらうことで、「水と環境」への関心を親世代・コミュニティへと拡げていただくとともに、エコ・ファースト制度やエコ・ファースト推進協議会の認知度向上を目指して開催したものです。本年度で4回目となり、過去最多843点の応募作品を厳正に審査した結果、新設の環境大臣賞をはじめ、加盟企業賞として「積水ハウス賞」も表彰しました。



「エコとわざ」積水ハウス賞作品  
(岡山市立宇野小学校6年 山原迅人さん)  
「かわのみず すこしわけてね さかなさん」

## 関西に本社を置くエコ・ファースト企業9社で、琵琶湖の外来魚駆除釣りボランティアを実施

琵琶湖では、ヨシ群落の減少や外来魚増殖の影響で、昔から生息していたニゴロブナやホンモロコなどの魚が激減し、貴

重で豊かな生態系が乱れています。関西の水源である琵琶湖で起きている問題を一人でも多くの方に理解していただくことを目的に、2013年9月7日、関西に本社を置くエコ・ファースト企業9社(クボタ、三洋商事、滋賀銀行、スーパーホテル、住友ゴム工業、ダイキン工業、ノーリツ、リマテック、積水ハウス)合同で、琵琶湖の外来魚駆除釣りボランティア活動を実施しました。当日はお子様から釣り名人まで197人(当社からは40人)が参加し、わずか75分程度で581匹の外来魚を釣り上げました。



## エコ・ファースト企業3社で、キレイなおうちで快適&エコな暮らしを提案するセミナーを開催

2013年12月18日、グランフロント大阪の「住ムフムラボ」などを会場に、エコ・ファースト企業3社(ダイキン工業、ライオン、積水ハウス)合同で、「くらしに役立つ“キレイ”セミナー」を開催しました。暮らしを提案する3社が連携し、様々な快適でエコな情報を参加者38人にご提案。積水ハウスは、家を長持ちさせることこそがエコにつながるという趣旨で、実演を交えながら、床の傷を簡単に目立たなくする方法をご紹介しました。

今後も、他の「エコ・ファースト企業」の取り組みに刺激を受けながら、住宅メーカーならではの環境保全活動に取り組んでまいります。



セミナーの様子  
(「住ムフムラボ」で当社社員がプレゼン中)

### 【関連項目】

> [「エコ・ファースト推進協議会」ホームページ](#) 

研究・開発

## R&Dの拠点「総合住宅研究所」

暮らしと住まいのあり方を探り、評価・研究する総合住宅研究所

### 総合住宅研究所の果たす機能

住まいの安全性・快適性を追求し、品質の向上を図ることは、住宅メーカーの使命です。当社は1990年に「総合住宅研究所」(京都府木津川市)を開設。住まいづくりに関するハード・ソフト両分野の研究開発を行っています。

建築物の振動実験や建材の耐久実験などにより、耐震性や居住性を検証。自社内での性能検証は、迅速な課題発見と解決につながり、独自の3階建て構法「βシステム」や制震システム「シーカス」など、多くの成果を上げてきました。ユニバーサルデザイン、新しい環境技術や暮らし方の研究にも取り組んでいます。

(2013年度 特許保有 927件(2014年2月時点))

総合住宅研究所は、「技術研究室」と「住生活研究室」の2部門で構成されています。

このうち「技術研究室」では、住宅の基本性能の検証や評価をはじめ、新しい構・工法の研究開発、健康で安全安心、快適な生活を目指した様々な研究開発を行っています。

また、「住生活研究室」では、「納得工房」においては一般の方々を対象とした体験学習をはじめ、住まいに関するさまざまな情報を発信。生活者と研究者が共に住まいのあり方を考える場として、双方向の情報受発信を行っています。

2013年度、納得工房への来場者数は3万2854人でした。



「総合住宅研究所」には体験型学習施設「納得工房」を併設



総合住宅研究所



## まち、社会、地球に優しい住まい

教育研究機関の体験見学受け入れや住文化向上のための交流を図るとともに、地球環境にやさしい暮らしを研究しています。

### 人にやさしい住まい

誰もがいつまでも安全・安心で快適に暮らせるための、そして一人ひとりのニーズにお応えするための、住まいのあり方を研究しています。



### ソフト分野の研究

当社が30年以上前から取り組んできた「生涯住宅」思想に基づくユニバーサルデザイン研究は、人間工学実験の成果に基づき、誰もが安全で快適に暮らせる住環境を生み出しています。積水ハウスのキッズでざいん「コードモイドコロ」は、設計を子ども目線で考える研究から生まれました。他にも住まいの収納問題を解決する「収納3姉妹」、ペットと暮らす「ディア・ワン」、共働きファミリーのための「トモイエ」など、新しい暮らし方の研究・提案を進めています。



子どもの生きる力をはぐくむ「コードモイドコロ」の空間づくり。  
子どもの身体・行動特性に基づき、不慮の事故防止にも配慮します。



加齢に伴う身体変化を考慮し、バス・トイレ・キッチンなどについて研究。  
さらに進化した「スマートユニバーサルデザイン」として展開しています。

## ハード分野の研究

性能の実験・検証により、新しい技術や素材を開発しています。構造体の強度を検証する振動台実験や水平加力実験、独自の部材構成で遮音性能を向上させる内外装の検証実験、屋外暴露による部材の耐候性実験などを通じて、建築技術や構法などの研究を行い、住宅性能の向上に取り組んでいます。



1979年に住宅業界初の実大振動実験を実施。  
その後も実験・検証を重ね、「免震」や「制震」などの技術を生み出してきました。



左：住宅内のVOC濃度やアレルギー原因物質を調査。  
研究成果が空気環境配慮仕様「エアキス」につながりました。

右：人工気象室での断熱性検証実験

### 【関連項目】

> [「研究開発」ホームページ](#) 

## 研究・開発

## BMIの一般生活環境への適用可能性確認

念じるだけで住宅設備や家電を操作。  
総務省から委託を受け、BMI実証実験に参画

2011年7月から、ネットワーク型BMIの研究開発事業に共同研究グループ(\*ATR、NTT、島津製作所、慶應義塾大学)の一員として参画しています。BMIとはブレイン・マシン・インタフェースの略。脳情報に基づいて機器やコンピューターを制御するもので、研究目標は、実験室内で確認されていたBMI技術を、一般の生活環境においても活用可能にすることです。

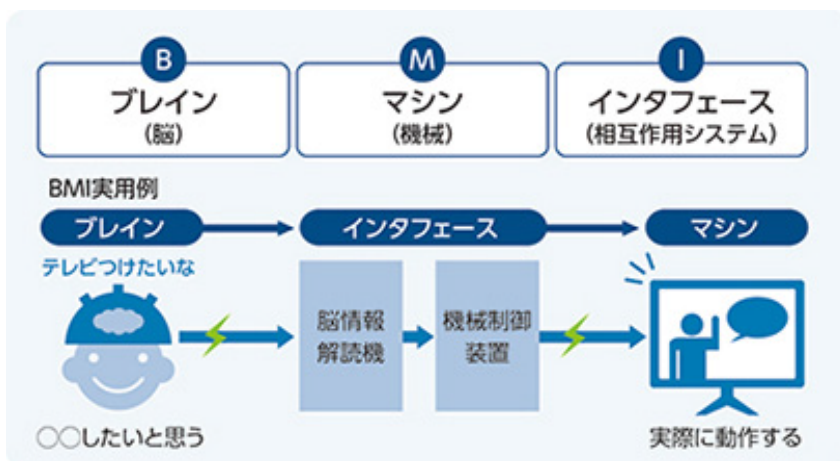
当社は、日常生活ができる普通の住宅でありながら、各種センサーや電動制御対応の設備機器により、BMI稼働も行える「BMIハウス」を構築しました。高齢者や軽度・中度の要介護者などの自立生活支援を目的とした多くの実証実験が始まっています。また、BMIを利用することで高齢者、軽度または中度の要介護者の自立をより支援する生活行為などについて、アンケート調査・ヒアリング調査を行い、BMIが有用な場面について検討を重ねています。



©2012 ATR、NTT、島津製作所  
積水ハウス、慶應義塾大学

「BMIハウス」では、当社の総合住宅研究所技術研究室が主体となり、実証実験を行っています(実験施設のため見学はできません)

※ ATR:株式会社国際電気通信基礎技術研究所(本社:京都府相楽郡精華町、代表取締役社長:平田 康夫)、NTT:日本電信電話株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:鶴浦 博夫)、株式会社島津製作所(本社:京都府京都市中京区、代表取締役社長:中本 晃)、学校法人慶應義塾(本部:東京都港区、塾長:清家 篤)



平成25年度総務省委託研究  
「脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発(高精度脳情報センシング技術・脳情報伝送技術、実時間脳情報抽出・解読技術及び脳情報解読に基づく生活支援機器制御技術)」による

## 究極のユニバーサルデザインを目指します

念じただけで、設備や機器を操作できるBMI技術が本当に有用な技術となるために、私たちは生活シーンを考えながら研究を進めています。この近未来的な素晴らしい技術をもっと身近なものにすることで、住まいが提供できる「健康」「快適」の価値をさらに高め、誰にとっても快適な「究極のユニバーサルデザイン」として、暮らし方の提案につなげていきます。



総合住宅研究所  
課長  
近藤 雅之



## 研究・開発

## 2030年の未来の家「エネマネハウス2014」で最優秀賞受賞

当社では、「エネマネハウス2014」において、東京大学(事業代表者 前 真之准教授)が提案する「ゼロエネルギー化を目指した都市型低層集合住宅のプロトタイプ」の設計とその実証事業『CITY ECOX』に共同事業者として参画し、最優秀賞を受賞しました。

「エネマネハウス2014」は、大学が主体となり企業とチームを構成し、「エネルギー」「ライフ」「アジア」をコンセプトに、2030年の家に求められる先進的なZEH技術や、新たな住まい方を取り込んだモデルハウスを建築・展示し、エネルギー・居住環境の測定成果を競い合うコンペティションです。

この事業は、経済産業省資源エネルギー庁「平成25年度住宅・ビルの革新的省エネ技術導入促進事業」の一環として、ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)に係る先進的な技術をいち早く市場に展開すべく、関連する技術開発や実証を推進しようとする大学や民間事業者等の取り組みについて幅広く提案が募られ、先端的な技術を取り込んだZEHの実証および展示を目的とし、実施されました。(事業名称:平成25年度「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの標準化に係る調査・実証事業(エネマネハウス2014)」)

2013年8月に事業公募が開始され、事前審査を通過した5大学(慶應義塾大学、芝浦工業大学、千葉大学、東京大学、早稲田大学)が、2014年1月に東京ビックサイトに隣接する東雲臨時駐車場に提案した住戸を実際に建設し、審査員へのプレゼンテーション、エネルギー・居住環境の測定を行い、成果を競い合いました。

当社は、技術的課題が多い集合住宅のZEH化を目指し、東京大学による「都市型集合住宅『CITY ECOX』」の設計、建設に全面的に協力。実証住宅は、積水ハウスの木造住宅「シャークウッド構法」を採用することで住宅メーカーとしての強みを生かし、高断熱、高气密性能を確保する高品質な住宅の短期間での設計、建設を、当社が主体となりながら協力企業とともに実現しました。測定結果による評価では、高い省エネルギー性、快適な室内環境を実現することが確認され、村上周三氏、隈研吾氏ら審査員による評価の結果においても、完成度の高さに加え、居住者のライフスタイルに柔軟に対応できる集合住宅というコンセプトが明確な点などが評価され、最優秀賞を受賞しました。

2014年1月29～31日の公開時には、延べ6700人を超える来場者数となり、大変注目される事業となりました。

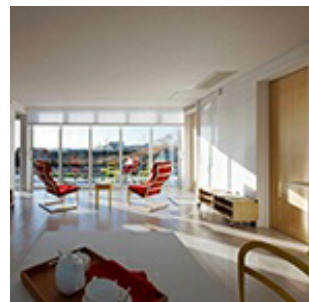
当社は今後、産学の連携を強化すると共に、ここで実証されたZEHを強化するうえで必要な技術に対して、実用化を目指した研究開発を進める予定です。

[ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの標準化に係る調査・実証事業 エネマネハウス2014](#)


「エネマネハウス2014」  
会場全景



「CITY ECOX」南面



「CITY ECOX」室内  
(フレックスゾーン)



東京大学学生チーム



## 研究・開発

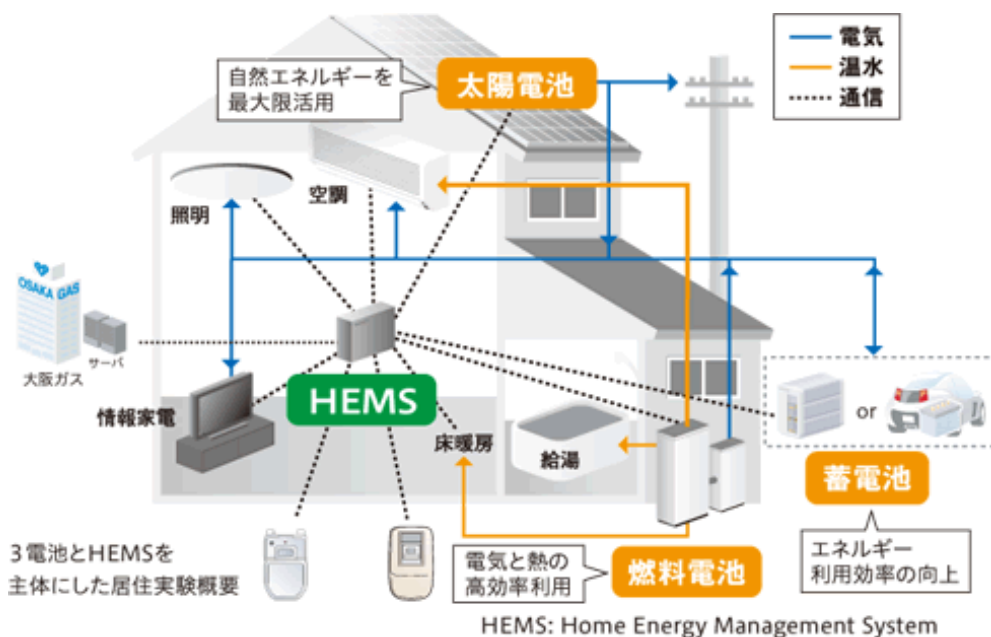
## 日本初、実際に家族が暮らしながら実施する「スマートエネルギーハウス」居住実験

2011年、大阪ガス(株)と共同で、「太陽光発電システム+固体酸化物型燃料電池(SOFC)+家庭用リチウムイオン蓄電池」にHEMSを組み合わせた「スマートエネルギーハウス」を建築。(財)建築環境・省エネルギー機構(IBEK)による「ライフサイクルカーボンマイナス住宅認定(LCCM住宅認定)」第1号を取得するとともに、建築環境総合性能評価システム「CASBEE戸建・新築」においても最高ランクであるSランクの認定を受けました。

「電気自動車の利用も含めCO 排出量を差し引きゼロにすることに加え、家電などの設備をスマートに制御して「より快適でより便利」な住まいを実現するための居住実験を開始。日本初の試みとなる「実際に居住しながら」の検証では、短期間で分かりにくい快適性や利便性などの評価に取り組みました。

2014年3月までの3年にわたる実証期間を通じ、自律制御された機器が提供する機能を住まい手が便利と感じるか、日射遮蔽・日射導入促進や夏季の外気導入による冷暖房負荷の削減効果等を検証しました。HEMSを利用したカーテンやシャッターの自動制御、夏季の日射遮蔽や冬季は日射利用による室内環境の向上について評価。自動水栓や自動扉などの利便性の評価等の様々な検証を行いました。居住実験により得られた知見と成果については、ネット・ゼロ・エネルギー化のベースとなる管理・制御技術の確立並びにさらに快適性、利便性の高い住まいの開発に生かします。

(奈良県王寺町／実験検証期間2011年2月～2014年3月)



LCCM住宅認定書



#### ◀HEMSの画面(例)

発電量・蓄電量・買電量・貯湯量などのエネルギーを可視化、効率的なエネルギー利用の指標であるエコエネ率も表示し、居住者の省エネ行動を促進、その効果を検証します

## 研究・開発

## 生体情報による健康管理で快適・安心な暮らしを創出

当社は、ベッドに寝るだけで非接触、非拘束で心拍・呼吸・体動が計測できる生体センサーの研究・開発を進めています。センサーから得られる生体情報を基に室内の照明や空調などをコントロールし、さらに気候や天気の良い日には自然の風や太陽の熱をうまく利用することで、より一層電気エネルギーの消費を削減し、さらに生活者の快適性が向上する生活の実現を目指しています。

2011年12月に開催された東京モーターショーに、当社は住宅業界で初めて出展し、本技術を広く一般の方々にご覧いただき、幅広い年齢層のお客様から高い関心をいただきました。

2013年は、実邸においても実証検証を始め、家庭内で使用するエネルギーを効率的に使用する「スマートハウス」のマネジメント機能を拡大させ、居住者の健康管理や見守り機能を備えた新サービス「スマートヘルスケアサポート」の開発に着手し、2014年度内の運用に向け、実証実験を開始しました。Vital Connect社（バイタルコネクト社、本社：アメリカ）の最新センシング技術によるウェアラブルセンサーを活用し、オーナー様の健康情報および活動状況をリアルタイムで測定します。また、対話型HEMSと連動させることで、健康上のアドバイスを行ったり、食事の管理や空調調節、体調異常の発見をしたり、オーナー様の健康をサポートするサービスを提供していきます。

ウェアラブルセンサーは、粘着型の使い捨てパッチ（約11cm）にセンサーを装着させたもので、体に貼りつけるだけで、生体データがリアルタイムに収集され、心拍数や呼吸数、表皮温度、消費カロリー、ストレスの測定等ができます。そのデータは、今後はHEMS上に記録され、さらに睡眠時の状態把握、転倒などによる怪我や意識不明状態の通知機能などから、適切なアドバイスや救助につなげることを目指します。将来的には、住環境から健康や食生活のサポート、医療介護の分野にまで機能を拡大する予定です。

当社は今後も、スマートハウスのリーディングカンパニーとして、暮らしの中にITやパーソナルモビリティといったロボティクス技術を取り入れ、生活者の視点に立った情報・サービスを提供し、快適な暮らしをサポートしていきます。

## &lt;ウェアラブルセンサー（開発中）&gt;



※本センサーは医療機器ではなく、販売・授与はできません。



## &lt;HEMS表示イメージ（開発中）&gt;

## &lt;主な機能（開発中）&gt;

- ・心拍数・心拍変動・呼吸数
- ・表皮温度・体位・歩数
- ・転倒検知・ストレス
- ・消費カロリー・歩調分析
- ・活動状況
- ・睡眠時間、入眠・起床
- ・睡眠覚醒判定、睡眠体位
- ・睡眠段階

## これまでのあゆみ

## 1960年代

昭和35年 1960年	<p>3月 積水化学工業株式会社にハウス事業部を設置</p> <p>4月 セキスイハウスA型(平屋建)発表 東京都千代田区の末広町駅近くに初のモデルハウス開設</p> <p>8月 積水化学工業株式会社ハウス事業部を母体とし、積水ハウス産業株式会社を資本金1億円にて設立、取締役社長に上野 次郎男就任</p> <p>11月 セキスイハウスA型を海外(オーストラリア)へ初輸出</p> <p>12月 建設業者登録(建設大臣登録(ト)第5286号)</p>
昭和36年 1961年	<p>1月 宅地建物取引業者登録(大阪府知事登録(1)第6714号)</p> <p>7月 滋賀県栗東町に滋賀工場を設置し、操業を開始 セキスイハウスB型(平屋建)発売 メータモジュール採用(業界初) アルミサッシ採用(業界初)</p>
昭和37年 1962年	<p>6月 積水ハウスが住宅金融公庫の融資対象住宅に認定される</p> <p>7月 セキスイハウスキャビンC型発売</p> <p>12月 セキスイハウス2B型(2階建)発売</p>
昭和38年 1963年	<p>6月 取締役社長に田鍋 健就任</p> <p>10月 積水ハウス株式会社に商号変更 日本初の総合住宅展示場(名古屋市、期間限定)に出展</p>
昭和39年 1964年	<p>3月 「直接販売体制」を確立</p> <p>12月 住宅金融公庫計画建売事業主体として指定される</p>
昭和40年 1965年	<p>7月 セキスイハウスE型(平屋建)発売</p> <p>8月 セキスイハウスF型(2階建)発売</p>
昭和43年 1968年	<p>4月 宅地建物取引業者免許(建設大臣免許(1)第403号)</p> <p>9月 セキスイハウスG型(5階建)発売</p>
昭和44年 1969年	<p>1月 セキスイハウスH型(2階建)発売 セキスイハウスHA型(アパート)発売</p> <p>3月 宅地建物取引業者免許(建設大臣免許(1)第540号)</p>

## 1970年代

昭和45年 1970年	8月 創立10周年 東京・大阪両証券取引所市場第2部に株式を上場 茨城県総和町に関東工場を設置し、操業を開始
昭和46年 1971年	3月 セキスイハウスK型(2階建)発売 住宅業界で初めて戸建住宅にユニットバスを採用 6月 株式を東京・大阪両証券取引所市場第1部へ指定替え 7月 セキスイハウステラステン(連棟式テラスハウス)発売 8月 株式のADR発行(S-12様式)が米国証券取引委員会(SEC)に登録
昭和47年 1972年	3月 当社株式をCDR(大陸預託証券)の形でオランダ・アムステルダム証券取引所へ上場 8月 株式を名古屋証券取引所市場第1部へ上場 10月 セキスイハウスM型(枠組壁工法)発売
昭和48年 1973年	2月 滋賀県に研修所を開設 8月 山口県鑄銭司に山口工場を設置し、操業を開始 10月 滋賀、関東の両工場が、工業生産住宅等品質管理優良工場として通産大臣認定を受ける 11月 積水ハウスの骨組工法が48年度「発明奨励賞」を受賞(プレハブ住宅業界初)
昭和49年 1974年	4月 セキスイハウスB(B型、2B型、K型、BF型、H型、KY型、KBY型、KB型、BK型)が「工業化住宅性能認定制度」に基づく建設大臣認定を受ける 6月 スイスにSekisui Gruppe A.G.設立 10月 建設業許可(建設大臣許可(特-49)第5295号、建築工事業) 12月 山口工場が工業生産住宅等品質管理優良工場として通産大臣認定を受ける セキスイハウスプラス1(3階建)発売
昭和50年 1975年	1月 東京・大阪・名古屋各証券取引所市場第1部信用銘柄に指定 茨城県に研修所を開設 2月 セキスイハウスBFQ型(2階建)発売 セキスイハウスBFA型(アパート)発売 5月 建設業許可(建設大臣許可(般-50)第5295号、造園工事業) セキスイハウスE(E型)がBに次ぎ「工業化住宅性能認定制度」に基づく建設大臣認定を受ける 6月 本社を大阪市北区中之島6丁目2番27号に移転 12月 セキスイハウスNC型(コンクリートの家)発売
昭和51年 1976年	11月 セキスイハウスBW・BKW型(和瓦の家)発売
昭和52年 1977年	3月 当社株式をGBC(包括無記名証券)の形で西ドイツ・フランクフルト証券取引所へ上場 4月 セキスイハウスSA型(アパート)発売工業化住宅性能認定の期限切れにともない新たにセキスイハウスB・BR・H・HR・Kとして再交付される 9月 初の大規模分譲マンション「グランドメゾン長堀」分譲開始 11月 セキスイハウスW型(純木造の家)発売
昭和53年 1978年	1月 セキスイハウスBK-V型(グルニエのある家)発売
昭和54年 1979年	1月 西ドイツにSEKISUI DEUTSCHLAND BAU G.m.b.H.設立 国立防災科学技術センターで実大振動実験 5月 セキスイハウスSが「工業化住宅性能認定制度」に基づく建設大臣認定を受ける 9月 セキスイハウスBO型(レンガの家)発売

## 1980年代（1）

昭和55年 1980年	<p>3月 20周年記念商品B-V型(グルニエ20)発売</p> <p>5月 工業化住宅性能認定の期限切れにともない、新たにセキスイハウスB・BR・Kとして再交付される</p> <p>8月 創立20周年</p> <p>10月 静岡県小笠郡大東町に静岡工場を設置し、操業を開始</p> <p>11月 電着塗装装置が55年度「発明奨励賞」を受賞</p> <p>12月 建設業許可(建設大臣許可(特-55)第5295号、内装仕上工事業)</p>
昭和56年 1981年	<p>4月 Pro-Renta Haus-u. Wohnungsvermietung,s G.m.b.H.設立</p> <p>8月 EDR(欧州預託証券)形式により、ルクセンブルク証券取引所に上場</p> <p>10月 セキスイハウスBK-530型(フェーのある家)発売</p>
昭和57年 1982年	<p>4月 セキスイハウスBK-430型(入り母屋の家)発売</p> <p>5月 セキスイハウスB・BR・S・SRが住宅金融公庫の省令簡耐仕様として承認される</p> <p>9月 賃貸住宅「フォーブル」発売</p> <p>10月 静岡工場が工業生産住宅等品質管理優良工場として通産大臣認定を受ける</p> <p>11月 セキスイハウスPSH-21型(パッシブソーラーハウス)発売</p>
昭和58年 1983年	<p>3月 建設業許可(建設大臣許可(特-57)第5295号、土木工事業)</p> <p>4月 セキスイハウスB-530型(ドーマーのある家)発売 セキスイハウスBKW-450型(数寄屋)発売</p> <p>5月 工業化住宅性能認定見直しのため、新たにセキスイハウスB・BRとして交付される</p> <p>9月 東部工事指導部関東研修所(茨城県猿島郡総和町)、西部工事指導部滋賀研修所(滋賀県栗東市)及び西部工事指導部山口研修所(山口市)開設</p> <p>11月 「住まいの図書館」(東京・新橋)開設</p>
昭和59年 1984年	<p>7月 オリジナル外壁材「ダインコンクリート」開発 コンクリート住宅「イズ・フラット」発売</p> <p>9月 賃貸住宅「タウニイFII・FIII」発売 鉄骨戸建住宅「クレフォート」発売</p> <p>10月 走るショールーム「シャトルバス」運行開始</p> <p>11月 「住まいの図書館」(神戸・三宮)開設</p> <p>12月 トーヨド建設株式会社に資本参加</p>
昭和60年 1985年	<p>4月 当社の社内検定が「積水ハウス主任技能検定」として団体第一号の労働大臣認定を受ける 鉄骨戸建住宅「フェーII」発売 パッシブソーラーシステム「セキスイハウスPSH-211」が優良省エネルギー住宅として第一号の建設大臣認定を受ける</p> <p>5月 「住まいの図書館」(千葉・松戸)開設</p> <p>7月 中国・同済大学と技術協定締結 兵庫県東条町に兵庫工場を設置し、操業を開始</p> <p>10月 鉄骨戸建住宅「エル」「シティオ」発売</p> <p>11月 コンクリート基礎の造成方法が60年度「発明奨励賞」を受賞</p> <p>12月 ツーバイフォー住宅「ONE'S ONE」シリーズ発売</p>



## 1980年代（1）

昭和61年 1986年	<p>1月 ツーバイフォー住宅「気積の家・PSX」（パッシブソーラーシステム採用）発売</p> <p>5月 六甲アイランド開発事業が本格的にスタート</p> <p>7月 ツーバイフォー住宅「ONE'S ONEラースティング」発売</p> <p>9月 大阪・八尾展示場のモデルハウスが「センチュリー・ハウジング・システム（CHS）」適合住宅として建設省の承認を受ける 鉄骨戸建住宅「グルニエEX」発売 賃貸住宅「アピア」発売</p>
昭和62年 1987年	<p>1月 大連桃源山荘（外国人居住区）建設契約調印（中国・大連市） コンクリート住宅「イズ・ステージ」発売 「六甲アイランドCITY」建設工事着工</p> <p>4月 都市型中層賃貸住宅「クレートメゾン」発売 セキスイハウス関東技術専修校開校</p> <p>5月 賃貸住宅「フレグランス」発売 鉄骨戸建住宅「ドーマーEGG」「ドーマーdex」発売 鉄骨戸建住宅「カインド」発売 セキスイハウス関西技術専修校開校</p> <p>6月 米国ワシントン州に子会社Sekisui House America, Inc.設立</p> <p>7月 木材加工会社West Coast Forest Products, Inc.（米国ワシントン州）を買収</p> <p>9月 カスタマーズセンター第1号として東京カスタマーズセンター設置</p> <p>11月 鉄骨戸建住宅「木もれ陽のある家SX」発売</p>
昭和63年 1988年	<p>1月 都市型賃貸住宅「フォーブル・ラプラス」発売</p> <p>5月 3階建ツーバイフォー住宅「ONE'S ONE テイク・スリー」発売</p> <p>7月 「シーサイドももち」着工</p> <p>9月 総合住宅研究所着工 コンクリート住宅「イズ・アーバン」発売</p> <p>10月 コンクリート住宅「イズ・パーソン」発売</p> <p>11月 3階建鉄骨住宅「ヴァンテージ・スリー」発売</p>
平成元年 1989年	<p>1月 鉄骨戸建住宅「グルニエGX」発売 「住まいの図書館」（大分・別府）開設</p> <p>4月 セキスイハウス山口技術専修校開校</p> <p>6月 トーヨド建設株式会社が積水ハウス木造株式会社に商号変更</p> <p>8月 「住まいの図書館」（佐賀）開設</p> <p>9月 第1回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>11月 3階建鉄骨住宅「ビー・アティック」発売 鉄骨戸建住宅「ローラ」発売 賃貸住宅「アド・ザックス」発売</p>

## 1990年代（1）

平成2年 1990年	<p>2月 工業化住宅などの品質向上貢献企業として通商産業大臣表彰を受ける</p> <p>3月 「西宮マリナシティ」計画事業コンペに当選</p> <p>4月 「国際花と緑の博覧会」に「三和みどり館」及び「大輪会水のファンタジウム」の各メンバー企業として参加</p> <p>ツープайフォー住宅「ONE'S ONE 711」発売</p> <p>総合住宅研究所(京都府)完成</p> <p>6月 鉄骨戸建住宅「ビー・フリー ライヴ」発売</p> <p>「新梅田シティ」着工</p> <p>8月 創立30周年</p> <p>地下室新構法発表</p> <p>9月 総合住宅研究所に体験学習施設「納得工房」開設</p> <p>「住まいの図書館」(神奈川・相模原)開設</p> <p>鉄骨戸建住宅「セントレージOR」発売</p> <p>第2回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>11月 賃貸住宅「アクレール」発売</p>
平成3年 1991年	<p>9月 第3回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>10月 「イズ・ステージ」(N251-MT)(桜上水展示場)が工業化住宅初のグッドデザイン賞を受賞</p> <p>鉄骨戸建住宅「グルニエZEX」発売</p> <p>11月 賃貸住宅「ディアス」発売</p>
平成4年 1992年	<p>2月 「1660基礎」を開発・導入</p> <p>3月 「第4次六甲アイランド」事業コンペに当選</p> <p>4月 鉄骨戸建住宅「セントレージMR」「セントレージTR」発売</p> <p>ツープайフォー住宅「ONE'S ONE エイジング」発売</p> <p>取締役社長に奥井 功就任</p> <p>5月 「すまい塾」開講</p> <p>9月 鉄骨戸建住宅「オリジナル・タウン」「オリジナル・ライヴ」発売</p> <p>第4回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>10月 「SANシステム構法」発表</p> <p>都市型3階建併用住宅「アービス3」発売</p>
平成5年 1993年	<p>3月 コンクリート住宅「オリジナル・スクエア」発売</p> <p>4月 都市型3階建住宅「アービスWG」発売</p> <p>5月 鉄骨戸建住宅「セントレージDR」発売</p> <p>本社を大阪市北区大淀中1丁目1番88号(梅田スカイビル)に移転</p> <p>7月 住居専用マンションとしては国内最高層(当時)の「ザ・シーン城北」起工式</p> <p>「新梅田シティ」グランドオープン</p> <p>9月 第5回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>10月 兵庫工場が工業生産住宅等品質管理優良工場として通産大臣認定を受ける</p> <p>11月 累積建築戸数100万戸達成</p> <p>賃貸住宅「ディアス・セフィラ」発売</p>



## 1990年代（2）

平成6年 1994年	<p>4月 鉄骨戸建住宅「セントレージFR」「セントレージLR」発売</p> <p>8月 新工法「J-アップ工法」を開発・発表 「六甲アイランドCITY」第4次開発プロジェクト起工式</p> <p>9月 第6回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>10月 都市型3階建住宅「アービス3・プライベート」発売 賃貸住宅「フォーブルNEW」発売</p> <p>11月 コンクリート住宅「イズ・パーソンNEW」発売</p>
平成7年 1995年	<p>1月 阪神・淡路大震災 復興支援仮設住宅を建設、復興本部を設置 鉄骨戸建住宅「グルニエEX NEW」発売</p> <p>3月 コンクリート住宅「オリジナル・スクエア プラス」発売</p> <p>4月 建設業許可（建設大臣許可（般-7）第5295号、とび・土工工事業） 都市型3階建住宅「アービス・WGII」発売</p> <p>8月 積水ハウス木造（株）を吸収合併 木造住宅事業（シャーウッド住宅事業）開始 木造戸建住宅「エム・グラヴィス」「エム・シャントア」「エム・リエット」発売</p> <p>9月 「アービス3・プライベート」がグッドデザイン賞を受賞 第7回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p>
平成11年 1999年	<p>2月 住宅用低価格中水利用システム開発・発表 「生涯住宅」への取り組みに対し、国連の外郭団体であるInternational Council for Caring Communities (ICCC) より表彰を受ける</p> <p>3月 鉄骨戸建住宅「セントレージ・グランツEX」「セントレージ・グランツGX」「セントレージ・グランツCX」「セントレージ・グランツDX」発売</p> <p>4月 都市型3階建住宅「ビエナ」発売 オリジナル外壁材「シェルテックコンクリート」開発 鉄骨戸建住宅「セントレージΣ -LR」「セントレージΣ -DR」発売</p> <p>6月 「小型タワークレーン、ガータークレーン」開発・発表</p> <p>9月 第11回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>10月 中古住宅流通システム「ユートラスシステム」創設 賃貸住宅「グランバリエGT」「グランバリエGR」発売 「ビエナ」がグッドデザイン賞を受賞 木造戸建住宅「エム・シャントアRX」発売 「グルニエ・ダインシリーズ」「エム・シャントアRX」に「次世代省エネルギー仕様」を標準採用</p> <p>11月 「環境未来計画」発表</p>

<p>平成12年 2000年</p>	<p>2月 全戸建住宅に「断熱アルミサッシ」「遮熱断熱複層ガラス」標準仕様 工場でのゼロエミッションプロジェクト開始</p> <p>3月 賃貸住宅「グランバリエG3」発売 低層賃貸住宅を「シャームゾン」としてブランド名統一 鉄骨戸建住宅「セントレージ・ギャラリー」発売</p> <p>4月 20年品質保証制度開始</p> <p>6月 コンクリート住宅「ダイنز・バリュー」、3階建コンクリート住宅「シェルテック・バ リュー」発売 建設業許可（建設大臣許可（特-12）第5295号、防水工事業）</p> <p>7月 木造戸建住宅「エム・ナチュラ プラス」発売</p> <p>8月 創立40周年</p> <p>9月 第12回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催 賃貸住宅「バリュージュ NEW」発売</p> <p>10月 木造戸建住宅「エム・シャントア・バリュー」発売 賃貸住宅「グランシード・アーバン」発売 「エム・シャントアRX」、可動間仕切収納「ヴァリエス」がグッドデザイン賞を受賞</p>
<p>平成13年 2001年</p>	<p>1月 累積建築戸数150万戸達成 「節付き柱状改良工法」開発・発表</p> <p>2月 積水ハウス北陸（株）、積水ハウス山梨（株）、積水ハウス四国（株）及び積水ハウス 山陰（株）を吸収合併</p> <p>3月 鉄骨戸建住宅「セントレージ・クレッセ」発売 全6工場で環境マネジメントシステム「ISO14001」認証取得完了 「5本の樹」計画発表 静岡工場に「住まいの夢工場」オープン スポンサー付ADR（American Depositary Reciepts/米国預託証券）の店頭取引開始</p> <p>4月 木造戸建住宅「エム・グラヴィス ベルサ」発売 オリジナル陶版外壁「ベルバーン」開発 賃貸住宅「ディアス・ワンズ」発売 「Netオーナーズクラブ」開設</p> <p>7月 鉄骨戸建住宅「セントレージJ&amp;K」発売</p> <p>9月 関東工場の「住まいの夢工場」グランドオープン 第13回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>10月 「コモンシティ十王・城の丘」がグッドデザイン賞を受賞 六甲アイランドに全国初のメディケアサービス付マンション「イーストコート11番街」 竣工 都市型高級賃貸住宅「ベータ・ラボ」発売</p> <p>11月 「スカイレールタウンみどり坂」でITを活用した住宅省エネシステムを開発 木造戸建住宅「マキシオ」発売</p> <p>12月 「グランドメゾン恵比寿の杜」着工</p>

<p>平成14年 2002年</p>	<p>2月 新型制振装置「マルチTMD」を鉄骨系3階戸建住宅に標準搭載            3月 賃貸住宅「ディアス・パルモ」発売            賃貸向け生活ソフトメニュー提案「ライムズ」発表            4月 コンクリート住宅「ウイズ・ダイン」発売            都市型3階建住宅「ジオ・トリステージII」発売            執行役員制を導入            滋賀工場に「住まいの夢工場」オープン            5月 全6工場でゼロエミッション達成            「青山ザ・タワー」着工            6月 「西宮マリナパークシティ・港のまち/ハーバーアヴェニュー」販売開始            「グランドメゾン三軒茶屋の杜」着工            7月 山口工場に「住まいの夢工場」オープン            9月 木造戸建住宅「エム・ベルバーンズ」発売            鉄骨戸建住宅「セントレージ・パレツソ」発売            第14回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催            10月 住宅におけるユニバーサルデザインの本格展開を宣言            「ベータ・ラボ」がグッドデザイン賞を受賞            11月 コンクリート住宅・新「イズ・ステージ」発売            木造戸建住宅「エム・グラヴィス ステージ」発売            3階建賃貸併用住宅「ベレオ」発売            全戸建住宅に適用する防犯住宅システムを発表</p>
<p>平成15年 2003年</p>	<p>2月 賃貸住宅「グランバリエG4」発売            3月 賃貸住宅「ディアス・ブランシェ-J」、「ディアス・パルモ-S」発売            鉄骨戸建住宅「セントレージ・アビーナ」、「セントレージ・エルヴァ」発売            5月 ハートフル生活研究所を設置            「グランドメゾン大手前タワー」着工            7月 業界最高レベルの「空気環境」を全戸で標準化            8月 滋賀県浅井町に浅井工場を設置し、操業を開始            全戸建住宅において「次世代省エネルギー仕様」を標準化            暮らし創造プログラム「シアター@ホーム」、ペット共生住宅仕様「Dear One」発表            瓦一体型の太陽光発電システム導入            賃貸住宅入居者サポートシステム「MASTクラブ」発足            9月 コンクリート住宅「ダインズ・バリューII」発売            木造戸建住宅「エム・シャントア・バリューNEW」発売            3階建賃貸住宅「ベレオC3」発売            第15回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催            10月 「エム・グラヴィス ステージ」がグッドデザイン賞を受賞            12月 鉄骨系2階戸建住宅において「免震システム」を本格展開</p>

平成16年 2004年	<p>1月 「ハイブリッド換気システムIII」が省エネ大賞会長賞を受賞</p> <p>2月 「赤坂ガーデンシティ」着工</p> <p>3月 鉄骨戸建住宅「キュービィ・キュービィ」発売</p> <p>4月 鉄骨戸建住宅パーソナルオーダーメイドシリーズ「ビー フリー」発売 木造戸建住宅・新「エム・シャントア」発売 シャーウッド2階戸建住宅において「免震システム」販売開始 東北工場に「東北 住まいの夢工場」オープン</p> <p>5月 アクタスとのコラボレーションによる新商品「生活を遊ぶ家」発売</p> <p>6月 全戸建住宅に「遮熱断熱・防犯合わせ複層ガラス」標準採用</p> <p>8月 賃貸住宅・新「ディアス」発売 「住宅防災」の総合的取り組みを宣言</p> <p>9月 第16回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催 コンクリート住宅パーソナルオーダーメイドシリーズ「ビー ダイナズ」発売 新築施工廃棄物処理の「広域認定制度」を業界初で認定取得</p> <p>10月 「積水ハウスグループ・中期経営ビジョン」を発表 シャーウッド構法の新システム「スーパーMJシステム」を発表</p> <p>11月 木造戸建住宅「エム・グラヴィス ヴィラ」発売 都市型3階建住宅「アーバンコレクション」発売 福岡「アイランドシティ」着工</p> <p>12月 「省エネ・防災住宅」発売</p>
平成17年 2005年	<p>1月 「省エネ・防災住宅」が省エネ大賞会長賞を受賞</p> <p>2月 積和不動産6社を100%完全子会社化 リフォーム事業を会社分割し、100%子会社の積水ハウスイノベーション株式会社に承継</p> <p>3月 「日本国際博覧会」(愛知万博)に「夢みる山」のメンバー企業として参加</p> <p>4月 「株主優待ポイント制度」を導入 積水化学と積水ハウスでの共同コストダウン委員会を設置 「サステナブル・ビジョン」を発表 「シャーウッド パーソナル・オーダーメイドシリーズ」発売</p> <p>6月 「アクションプラン20」の推進を開始</p> <p>7月 「新築施工現場のゼロエミッション」を達成</p> <p>8月 「サステナブル デザイン ラボラトリー」(東京都国立市)着工 「睡眠空間」のパイロット展開を開始 「納得工房」累計見学者数50万人突破</p> <p>9月 北信越エリアに「北信越 住まいの夢工場」オープン 第17回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催 賃貸住宅「クレセオ・J」発売 アイランドシティ「照葉のまち」(福岡市)まち開き</p> <p>11月 エコライフモデルシリーズを発売 「グランドメゾン杉並シーズン」着工</p> <p>12月 都市型鉄骨戸建住宅「ビー アーバン」発売</p>

平成18年 2006年	<p>1月 「赤坂ガーデンシティ」竣工</p> <p>3月 「積水ハウスグループ中期経営計画」発表 都市型3階建住宅「ベータ アティックコレクション」発売 アフターメンテナンス部門のゼロエミッション達成</p> <p>4月 「まちづくり憲章」制定 第1回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催 「カーサ・フィーリア 娘と暮らす家」発表 家庭菜園の新しい形「菜園ガーデン」発表 温暖化防止研究所を設置</p> <p>5月 木造住宅「エム・ナチュラ いおり」発売 「サステナブル デザイン ラボラトリー」(東京都国立市)完成</p> <p>7月 新梅田シティに「新・里山」完成</p> <p>8月 「Life with Music &amp; Theater 音のある暮らし」のパイロット展開を開始 東京支社を赤坂ガーデンシティに移転</p> <p>9月 第18回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>10月 「5本の樹」計画が2006年度グッドデザイン賞を受賞 「東京テラス」が2006年度グッドデザイン賞を受賞 第2回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催</p> <p>11月 「アクションプラン20」が平成18年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞 「グランドメゾン東戸塚」着工</p>
平成19年 2007年	<p>1月 「ICタグ」を活用した「次世代型ゼロエミッションシステム」を試験導入</p> <p>3月 オーナー住宅買取再生事業を本格展開</p> <p>4月 コンクリート住宅「イズ オーダー」発売 鉄骨戸建住宅「ビー エコルド」発売地震動エネルギー吸収システム「シーカス」をイズシリーズと「ビー エコルド」に標準搭載 オリジナル外壁材「エコルデック」開発 第3回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催 木造戸建住宅「緑の家」発売 賃貸住宅「ヴィラーチェ」発売 「木材調達ガイドライン」・「化学物質ガイドライン」を策定 千葉大学との共同研究「ケミレスタウン・プロジェクト」に参画し、「ケミレスハウス」実証実験棟を建築</p> <p>8月 子どもの生きる力を育む住まいづくり“キッズでざいん”が第1回キッズデザイン賞を受賞</p> <p>9月 「本町ガーデンシティ」着工(“セント レジス ホテル 大阪”進出を発表) 第19回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p> <p>10月 鉄骨戸建住宅「デュオラ コレクション」発売 「緑の家」が2007年度グッドデザイン賞を受賞 「株主優待贈呈制度」を導入 「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトを運用開始 賃貸住宅「クラヴィエ」発売 リフォーム施工現場のゼロエミッション達成 第4回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催</p> <p>11月 「持続可能なまちづくり」の取り組みが平成19年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞</p>

平成20年 2008年	<p>3月 「積水ハウスグループ中期経営計画」発表 木造戸建住宅「パーソナルオーダーメイド ルーモア」発売</p> <p>4月 「CO2オフ住宅」発売 これからの二世帯住宅の暮らし方「シェアウィズ」を提案 第5回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催 「Webすまい塾」サイト運用開始 代表取締役会長兼CEOに和田 勇就任 代表取締役社長兼COOに阿部 俊則就任</p> <p>5月 「グランドメゾン西九条BIO」着工 ドイツで開催されたCOP9における「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」に参加し、「リーダーシップ宣言」に署名</p> <p>6月 住宅・建設業界初の「エコ・ファースト企業」として環境大臣から認定</p> <p>7月 経済産業省が北海道洞爺湖サミット開催にあわせ建設した近未来型住宅「ゼロエミッションハウス」の建設に協力 「RFタグ活用による次世代型資源循環システム」が第10回「自動認識システム大賞」(フジサンケイビジネスアイ賞)を受賞</p> <p>8月 「グランドメゾン伊丹池尻 リテラシティ」と「乳幼児を対象とした身体及び動作計測装置の開発と建築安全計画への考察」が第2回キッズデザイン賞において部門賞を受賞</p> <p>9月 コンクリート住宅「イズ オーダー J」発売 第20回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催 「CO2オフ住宅」が第10回グリーン購入大賞において“優秀賞”を受賞</p> <p>10月 環境共生型まちづくりデザイン手法「n×豊か」が2008年度グッドデザイン賞を受賞 第6回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催</p> <p>11月 積水ハウスの再生住宅フェア「エバーループ参観日」開催 「CO2オフ住宅」が新エネ大賞において“新エネルギー財団会長賞”を受賞 関東工場「ゼロエミッションセンター」にて「ゼロエミッションハウス」を公開開始</p> <p>12月 Sekisui House Australia Holdings Pty Limited 設立</p>
平成21年 2009年	<p>3月 「本町南ガーデンシティ(仮称)」着工 「御殿山プロジェクト(仮称)」Aブロック着工 「シャーマゾンECOスタイル」発売 環境配慮型住宅「グリーンファースト」発売</p> <p>4月 総合住宅研究所内に「関西 住まいの夢工場」オープン 第7回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催 積水ハウスの再生住宅フェア「エバーループ参観日」開催 太陽光発電システムを標準搭載した「ピーエコルド カジュアル グリーンファースト」 「エム・ナチュラ グリーンファースト」発売 積和建設グループがリフォーム事業(当社施工以外の建物)開始</p> <p>5月 「積水ハウス ゼロエミッションセンター」来場者1万人突破</p> <p>7月 「可変子ども空間」や「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」など7項目が第3回キッズデザイン賞を受賞 オーストラリア連邦における住宅事業を発表 天井埋込型プラズマクラスターイオン発生機をシャープ株式会社と共同開発</p> <p>8月 木造平屋戸建住宅「里楽」(RIRAKU)発売 積和不動産KRM株式会社、積和不動産札幌株式会社を積和不動産株式会社に吸収合併</p> <p>9月 「木材調達ガイドライン」が第1回生物多様性日本アワードにおいて“優秀賞”を受賞 第21回日本全国積水ハウス・デー「住まいの参観日」開催</p>



平成21年 2009年	<p>10月 積水ハウスオリジナル瓦型太陽光発電システムが2009年度グッドデザイン賞を受賞 木材調達に関する取り組みが第11回グリーン購入大賞において“優秀賞”を受賞 積水ハウス「ケミレスハウス」実証実験棟が戸建住宅初の「ケミレス（プロトタイプ） 認証」取得 資源循環に関する継続的な取り組みが平成21年度リデュース・リユース・リサイクル推 進功労者等表彰において“内閣総理大臣賞”を受賞 第8回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催 共働き家族のさらに快適で充実した生活をサポートする住まい「トモイエ」を発売 「グランドメゾン東戸塚」が第29回緑の都市賞において“国土交通大臣賞”を受賞 建設業許可（国土交通大臣許可（般-21）第5295号、タイル・れんが・ブロック工事 業、管工事業）</p> <p>11月 「空気環境配慮住宅（ケミケア仕様）」を発売 「グリーンファースト」が第6回エコプロダクツ大賞において“エコプロダクツ大賞推進 協議会会長賞”を受賞</p> <p>12月 関東・住まいの夢工場に全灯LEDのモデル住宅第一号を建設 三洋電機とリチウムイオン電池搭載住宅の共同研究を開始すると発表</p>
平成22年 2010年	<p>1月 積水ハウスグループ 2010年度中期経営計画発表 累積建築戸数200万戸達成 地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」にスターティングメン バーとして参画</p> <p>2月 積水ハウスの「新・里山」での取り組みが「ストップ温暖化『一村一品』大作戦全国大 会2010」において“銅賞”を受賞 大阪ガスと共同で「スマートハウス」の実証実験を開始 興和不動産株式会社と包括的な業務提携に関する協定を締結 株式会社ジョイント・キャピタル・パートナーズの全株式取得及びジョイント・リート 投資法人の第三者割当増資の引受け等を決定</p> <p>3月 最先端ペットショップ「PECOSお台場店」に積水ハウスのアンテナショップ「Dear One」を出店 木材調達ガイドラインによるフェアウッド調達の推進が第8回「日本環境経営大賞」にお いて“環境価値創造パール大賞”を受賞 大阪駅北地区先行開発区域プロジェクト新築工事着工</p> <p>6月 非接触型・非拘束型生体センサーシステムを開発 「本町ガーデンシティ」竣工</p> <p>7月 「サステナブル デザイン ラボラトリー」や「トモイエ」など全6部門11項目で第4回キ ッズデザイン賞を受賞</p> <p>8月 創立50周年 「サステナブル デザイン ラボラトリー」が第4回キッズデザイン賞の優秀賞を受賞</p> <p>9月 鉄骨戸建住宅「ビー・サイエ」発売 木造戸建住宅「ザ・グラヴィス」発売 豪州最大手デベロッパー「レンドリース」との事業提携を発表 米国ヒューストンの「シンコ・ランチ」プロジェクトでの居住用不動産開発を発表 第22回日本全国積水ハウス・デー 史上最大の「住まいの参観日」開催 積水ハウスオリジナル「スマート ユニバーサルデザイン」が「2010年度グッドデザイン 賞」を受賞</p>

平成22年 2010年	<p>10月 米国ワシントンD.C.近郊の大規模不動産開発事業「ワン・ラウドウン」プロジェクトに参入 第10回積水ハウスの分譲住宅フェア「まちなみ参観日」開催 日本財団の「世界に誇る日本のCSR先進企業実態調査」で2年連続第1位</p> <p>11月 横浜みなとみらい21地区において「スマート・ネットワークプロジェクト」実証実験を開始 応用脳科学コンソーシアムに参画し、研究活動を開始 静岡工場で「完全邸名別生産」の自動化製造ラインを稼働開始</p>
平成23年 2011年	<p>1月 工場間の鉄骨部材輸送の一部を鉄道にモーダルシフト 太陽光発電システム搭載の戸建住宅 業界初の年間10,000棟を突破</p> <p>2月 EV・PHV 充電用コンセントを戸建住宅に標準設置 大阪ガスと共同で「スマートエネルギーハウス」居住実験を開始 「日本内部統制大賞2011」(「誠実な企業」賞)優秀賞に選定</p> <p>3月 「積水ハウス ゼロエミッションセンター」来場者数5万人突破 「東北 関東大震災対策本部」を設置</p> <p>4月 瀋陽、蘇州で大型都市開発プロジェクトを開始 シンガポールでファーイースト、フレイザーズ・センターポイントと積水ハウスの3社で不動産開発PJを実施 米国シアトルでニューランド社と不動産開発PJ「カスケディア」を開始</p> <p>6月 京都市中京区に新築する建物に「ザ・リッツ・カールトン」を2014年春に開業することをザ・リッツ・カールトン・ホテル・カンパニーと合意し契約締結</p> <p>7月 オーストラリア・シドニーで複合開発「セントラルパーク」の共同開発事業開始 空気環境配慮仕様「エアキス」の販売を開始 高遮音床システム「シャイド55」「積水ハウスのLED暮らし」など4部門7項目で第5回キッズデザイン賞を受賞</p> <p>8月 第5回キッズデザイン賞において、高遮音床システム「シャイド55」で優秀賞、「積水ハウスのLED暮らし」で審査員特別賞を受賞 太陽電池・燃料電池・蓄電池の3電池を組み合わせた「グリーンファースト ハイブリッド」発売</p> <p>9月 「グランフロント大阪オーナーズタワー」分譲開始</p> <p>10月 コンクリート住宅「イズ・ロイエ」発売 木造戸建住宅「グラヴィス・ヴィラ」発売 内と外とを緩やかにつなぐ居心地の良い空間「スローリビング」が2011年度グッドデザイン賞を受賞 「グランドメゾン宝塚清荒神」新築工事とグラウンド用白線「プラタマパウダー」が平成23年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰において「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」を受賞</p> <p>11月 環境省「エコチル調査」の企業サポーターとして登録</p> <p>12月 「スマートコモンシティ明石台」分譲開始 東京モーターショーにおいて住宅メーカーとして初の出展</p>

平成24年 2012年	<p>1月 「グリーンファースト ハイブリッド」が岐阜県のエネルギー地産地消モデルに選定 「スマートエネルギーハウス」が「LCCM住宅認定」第1号取得 「グリーンファースト ハイブリッド」が平成23年度「新エネ大賞」最上位の経済産業大臣賞受賞</p> <p>2月 静岡工場で木造住宅「シャーウッド」向け陶版外壁「ベルバーン」の新製造ラインが稼働開始 「本町ガーデンシティ」が「第5回大阪サステナブル建築賞」大阪府知事賞受賞 東京都北区に多世代交流型賃貸マンション「マストライフ古河庭園」竣工</p> <p>3月 「スマートコモンステージけやき平」分譲開始</p> <p>4月 中国・初の生産拠点、瀋陽の鉄骨住宅生産工場完成 積水ハウスのスマートタウン第一号「スマートコモンシティ明石台」(宮城県富谷町) まちびらき</p> <p>5月 高遮音床システム「シャイド55」が日本音響学会の第20回技術開発賞受賞 太陽光発電・燃料電池搭載住宅で「国内クレジット」認証取得</p> <p>7月 「子どものためのスマートユニバーサルデザイン」[「プレイフル・デザイン・カード」]の開発と検証など4部門6点で第6回キッズデザイン賞受賞</p> <p>9月 業界初のサービス付き高齢者向け住宅「セレブリオ」発売 「御殿山プロジェクト」が第11回「屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール」 「国土交通大臣賞」受賞 「防災と電力不足に対応するスマートタウン」を愛知、三重、岐阜で展開開始</p> <p>10月 「グリーンファースト」の蓄電池ラインナップを拡充 「陶版外壁ベルバーン」「かずさの杜 ちはら台」がグッドデザイン賞受賞 「IAUDアワード2012」"大賞／経済産業大臣賞"を受賞 日本IBMとスマートシティ時代を見据えた次世代プラットフォーム構築 "CO2 ゼロ"のまち アイランドシティ「照葉スマートタウン」(福岡市)まちびらき</p> <p>11月 BMIの一般生活環境への適用可能性を確認 積水ハウスグループ 2012年度 中期経営計画発表 「スマートコモンシティ」が第9回エコプロダクツ大賞 "エコプロダクツ大賞推進協会 会特別賞" 受賞</p> <p>12月 木造戸建住宅「グラヴィス・ベルサ」発売</p>
平成25年 2013年	<p>2月 「スマートコモンシティ林町」(香川市)まちびらき 東証「なでしこ銘柄」に選定</p> <p>3月 「チャイルド・ケモ・ハウス」竣工</p> <p>4月 ゼロエネルギー住宅「グリーンファースト ゼロ」発売 全工場のメガソーラー6.7MWが発電を開始 Hondaとスマートハウス分野で協力関係を構築 グランフロント大阪に「SUMUFUMULAB (住ムフムラボ)」オープン</p> <p>5月 「コドモ里山ラボ東京森都心」オープン 全棟ゼロエネルギー住宅の「スマートコモンステージ美田園」販売開始</p>

社外からの主な評価

---

## SRIインデックスへの組み入れ

SRIインデックスとは、企業の財務面のほか、環境面や社会面なども重要な投資判断とする社会的責任投資（SRI）の指標のことです。積水ハウスグループの積極的なCSR活動は、市場において高い評価を受け、2014年1月末時点で以下のSRI関連インデックスに組み入れられています。

- 「FTSE 4Good Global Index」「FTSE 4Good Japan Index」
- 「モーニングスター社会的責任投資株価指数」

また、2013年2月には、東京証券取引所・経済産業省が女性活躍推進をテーマに抽出した「なでしこ銘柄」に選定されました。

社外からの主な評価

## 主な表彰実績

### 2013年度 社外からの主な評価

#### 環境

##### ■ 観環居 / kankankyo

2013年4月 環境・設備デザイン賞  
 建築・設備統合デザイン部門 入賞  
 【主催：一般社団法人建築設備総合協会】



##### ■ アイランドシティのコミュニティを創出する環境啓発

2013年10月 ふくおか共助社会づくり表彰 協働部門賞 【主催：福岡県】  
 ※ベッタ会、Camellia Garden Club、西部ガス株式会社 住宅エネルギー営業本部、  
 九州産業大学 経営学部、福岡市 港湾局アイランドシティ経営計画部計画調整課との共同応募

##### ■ 花とみどり・心豊かな暮らしのdesign「楽縁(らくえん)」

2013年10月  
 「日比谷公園ガーデニングショー2013」ガーデンコンテスト  
 ガーデン部門 東京都知事賞  
 【主催：日比谷公園ガーデニングショー実行委員会】  
 ※積和建設東京株式会社、積和建設神奈川株式会社との共同作品

##### ■ ゼロエネルギー化を目指した都市型低層集合住宅の プロトタイプ的设计とその実証事業「CITY ECOX」

2014年1月 エネマネハウス2014 最優秀賞  
 【主催：エネマネハウス2014実行委員会】  
 ※東京大学との共同事業(東京大学コンソーシアムとして受賞)

#### まちづくり・景観ほか

##### ■ 「御殿山プロジェクト」

2013年4月 環境・設備デザイン賞  
 環境デザイン部門 優秀賞  
 【主催：一般社団法人建築設備総合協会】



2013年10月 都市公園コンクール 企画・独創部門 審査委員会特別賞  
 【主催：一般社団法人日本公園緑地協会】

※株式会社日建設計、大成建設株式会社一級建築士事務所との共同応募

##### ■ 「グランドメゾン百道浜Villa」

2013年5月 照明普及賞 【主催：一般社団法人照明学会】

##### ■ 「グリーンヒルズ湯の山」

2013年6月 住まいのまちなみコンクール 住まいのまちなみ賞  
 【主催：まちづくり月間全国的行事実行委員会、  
 一般財団法人住宅生産振興財団、  
 一般社団法人住まい・まちづくり担い手支援機構】

※グリーンヒルズ湯の山団地まちなみ景観委員会が応募



■サービス付き高齢者向け住宅「Cアミーユ四ツ木」

2013年10月 表彰賃貸マンション 理事長表彰 【主催：住宅金融支援機構】

■「メゾンマストあら町」

2013年11月 米沢市景観賞 現代部門 【主催：山形県米沢市】

■「Mast Town上田原」

2013年11月 上田市都市景観賞 【主催：長野県上田市】

■大型複合施設「グランフロント大阪」

2014年1月 日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞 日経MJ賞

【主催：日本経済新聞社】 ※事業主12社による共同応募

■「チャイルド・ケモ・ハウス」

2014年1月 神戸市都市デザイン賞

まちのデザイン部門 建築文化賞 【主催：兵庫県神戸市】

※公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金、株式会社手塚建築研究所とともに受賞



商品・技術ほか

■「ドクターユニバーサルデザイン授業  
～小学校での取り組み～」

IAUDアワード2013 未来世代部門 金賞



■「子どものためのスマートユニバーサルデザイン  
～生活者とともに作る子どもの安全な成長を考えた住まい～」

IAUDアワード2013 未来世代部門 銀賞

2013年11月 【主催：一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会】

■企業広告「家に帰れば、積水ハウス。」シリーズ

2013年4月

フジサンケイグループ広告大賞

メディア部門 新聞優秀賞

【主催：フジサンケイグループ】

2013年4月

毎日広告デザイン賞

住宅・不動産部門 部門賞

【主催：毎日新聞社】

2013年6月

読売広告大賞 読者が選ぶ広告の部

部門賞<住む> 優秀賞

【主催：読売新聞社】

2013年10月

ビジネス広告大賞

シリーズ広告部門 佳作

【主催：フジサンケイビジネスアイ】

■広告「のぼる人がいる。見上げる人がいる。」

2013年9月 静岡新聞広告賞 広告主部門 大賞 【主催：静岡新聞社】

■グループ誌「積水ハウス」

2014年2月 経団連推薦社内報 雑誌・新聞部門 総合賞

【主催：一般社団法人経団連事業サービス 社内広報センター】

グッドデザイン賞

(住宅・住宅設備部門)

■重量鉄骨ラーメン構造「βシステム構法」

■木造軸組構法「シャーウッド構法」

2013年10月

【主催：公益財団法人日本デザイン振興会】





(子どもの未来デザイン 学び・理解力部門) 優秀賞 経済産業大臣賞  
**■キッズデザイン体験施設を中心とした街づくり  
 「コドモ里山ラボ 東京森都心」**  
※株式会社アクタス、コクヨ株式会社、株式会社ジャクエツ、  
 パナソニック株式会社との共同応募

(子ども視点の安全安心デザイン 子ども部門) 奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞  
**■小児がん治療中の子どもたちとその家族のための  
 夢の治療環境「チャイルド・ケモ・ハウス」**  
※公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金、NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス、  
 手塚貴晴+手塚由比/株式会社手塚建築研究所との共同応募

(復興支援デザイン部門) 奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞  
**■東日本大震災被災地で、みどり豊かで笑顔あふれる  
 まちを目指す「まちみどりプロジェクト」**  
※積和建設東北株式会社との共同応募

(子ども視点の安全安心デザイン 子ども部門)  
**■安全・安心で、経済性も高く、環境に配慮した  
 グラウンド用ライン材「プラタマパウダー」**  
※株式会社グリーンテクノ21との共同応募

(子どもの未来デザイン 創造性・感性部門)  
**■子どもの感性や創造性を育む  
 分譲マンション「グランドメゾン狛江」**


(子どもの未来デザイン 学び・理解力部門)  
**■子どもたちのふるさとになる街づくり「グリーンヒルズ湯の山」**  
※グリーンヒルズ湯の山団地まちなみ景観委員会との共同応募


**■「5本の樹」計画を活用した全国での自然教育活動**

(子どもの産み育て支援デザイン 個人・家庭部門)  
**■キッズ&ベビーでざいん賃貸住宅「シャーマゾン」  
 ■親子いっしょの楽しみがもっと広がる生活提案「モビリティライフ」**

(未来を担う消費者デザイン部門)  
**■UDを見る確かな目を育む  
 「ドクターユニバーサルデザイン授業 ～小学校での取り組み～」**  
※大阪府産業デザインセンター、大阪府豊中市立上野小学校との共同応募

**2013年7月 【主催:特定非営利活動法人キッズデザイン協議会】**







**■積水ハウス株式会社**  
2013年2月  
 女性活躍推進企業として  
 東京証券取引所・経済産業省の「なでしこ銘柄」に選定

---

**■「サステナビリティレポート2013」**  
2014年2月  
 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門  
 優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞)  
**【主催:環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム】**





## これまでの社外からの主な評価

### CSR

世界に誇る日本のCSR先進企業実態調査  
(主催: 日本財団)

2009年10月	第1位 積水ハウス株式会社
2010年10月	第1位 積水ハウス株式会社

日本内部統制大賞2011－Integrity Award－(「誠実な企業」賞)  
(主催: 日本内部統制大賞－Integrity Award－審議会)

2011年2月	優秀賞 積水ハウス株式会社
---------	------------------

パートナーシップ大賞  
(主催: 特定非営利活動法人 パートナーシップ・サポートセンター)

2007年11月	パートナーシップ賞 障がい者手作りノベルティの共同企画と活用事業
----------	-------------------------------------

### 大阪市感謝状

2011年11月	東日本大震災における被災者・被災自治体支援
----------	-----------------------

### 神戸市感謝状

2011年12月	「神戸まちづくり六甲アイランド基金」による助成活動
----------	---------------------------

### 名古屋市女性の活躍推進企業認定

2011年1月	最優秀賞 積水ハウス株式会社
---------	-------------------

### 環境

地球温暖化防止活動環境大臣表彰  
(主催: 環境省)

2006年11月	京都議定書遵守行動「アクションプラン20」
2007年11月	「持続可能なまちづくり」の取り組み

### 新エネ大賞

(主催:財団法人 新エネルギー財団)

2008年11月	新エネルギー財団会長賞 「CO <sub>2</sub> オフ住宅」
2012年1月	経済産業大臣賞 「グリーンファースト ハイブリッド」

### エコプロダクツ大賞

(主催:エコプロダクツ大賞推進協議会)

2009年11月	エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞 環境配慮型住宅「グリーンファースト」
2012年11月	エコプロダクツ大賞推進協議会特別賞(節電優秀賞) 「スマートコモンシティ」

### 省エネ大賞

(主催:財団法人 省エネルギーセンター)

2004年1月	省エネルギーセンター会長賞 オリジナル住宅換気システム「ハイブリッド換気システムⅢ(VSY-20S)」
2005年1月	省エネルギーセンター会長賞 高効率エネルギー利用住宅システム「省エネ・防災住宅」

### 生物多様性 日本アワード

(主催:環境省、財団法人 イオン環境財団)

2009年9月	優秀賞 生物多様性保全に向けた「木材調達ガイドライン」10の指針
---------	-------------------------------------

### 地球環境大賞

(主催:フジサンケイグループ)

2007年2月	フジサンケイグループ賞 徹底した自社分別に基づく「循環型事業」構築の取り組み
---------	-------------------------------------------

### グリーン購入大賞

(主催:グリーン購入ネットワーク)

2008年9月	優秀賞 「CO <sub>2</sub> オフ住宅」の普及とライフスタイル提案による家庭部門のCO <sub>2</sub> 排出量削減
2009年10月	優秀賞 持続可能性を考えた木材(フェアウッド)調達の推進

**リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰**  
(主催:リデュース・リユース・リサイクル推進協議会)

2009年10月	内閣総理大臣賞 工業化住宅における継続的なゼロエミッション活動
2011年10月	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 グラウンド用白線材「プラタマパウダー」 「グラントメゾン宝塚清荒神」新築工事

**環境・設備デザイン賞**  
(主催:一般社団法人建築設備総合協会)

2012年4月	優秀賞 「サステナブル デザイン ラボラトリー」
---------	-----------------------------

**ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック**  
(主催:財団法人 日本地域開発センター)

2009年2月	優秀賞 「ビー エコルド」、「イズ」シリーズ
2010年1月	特別賞 「グリーンファースト」
2011年1月	特別賞 「シャームゾン ECOスタイル クロスソーラー」 優秀企業賞 積水ハウス株式会社

**おおさか環境賞**  
(主催:豊かな環境づくり大阪府民会議、大阪府)

2006年6月	大賞 自社内分別に基づく「新築施工現場ゼロエミッション」活動
---------	-----------------------------------

**自動認識システム大賞**  
(主催:社団法人 日本自動認識システム協会)

2008年7月	フジサンケイビジネスアイ賞 RFタグ活用による次世代型資源循環システム
---------	----------------------------------------

**パートナーシップ大賞**  
(主催:特定非営利活動法人 パートナーシップ・サポートセンター)

2008年11月	パートナーシップ賞 「5本の樹」による生物多様性保全事業
----------	---------------------------------

**「合法木材等普及推進」顕彰**  
(主催: 社団法人 全国木材組合連合会)

2008年12月

林野庁長官感謝状  
「木材調達ガイドライン」に基づくフェアウッド調達の推進

**ストップ温暖化「一村一品」大作戦 全国大会2010**  
(主催: 環境省)

2010年2月

銅賞  
新梅田シティ「新・里山」における取り組み

**企業フィランソロピー大賞**  
(主催: 公益社団法人 日本フィランソロピー協会)

2010年2月

特別賞(自然共創賞)  
自然再生と生態系保全を目指す「5本の樹」計画

**日本環境経営大賞**  
(主催: 日本環境経営大賞表彰委員会、三重県)

2010年3月

環境価値創造パール大賞  
「木材調達ガイドライン」による「フェアウッド」調達の推進

**生物多様性保全につながる企業のみどり100選**  
(主催: 財団法人 都市緑化基金)

2010年5月

新梅田シティ「新・里山」

**「日比谷公園ガーデニングショー」ガーデンコンテスト**  
(主催: 日比谷公園ガーデニングショー実行委員会)

2010年10月

東京都知事賞  
もてなしの庭

**いきものにぎわい企業活動コンテスト**  
(主催: いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会)

2011年10月

財団法人水と緑の惑星保全機構会長賞  
「5本の樹」計画の庭づくり

**さいたま環境賞**  
(主催: 埼玉県)

2012年3月

環境保全活動を通じた環境学習

まちづくり・景観ほか

1980年代	手づくり郷土賞 桜ヶ丘ハイツ
	公共の色彩賞 鎌倉グランドエステイツ
	公共の色彩賞、札幌市都市景観賞 コモンシティ山の手
	千葉街並み景観賞 コモンシティ船橋
	横浜まちなみ景観賞 コモンシティ湘南・六浦
	今治市都市景観建築賞 コモンシティ吹揚
	北九州市緑の街かど賞 コモンライフおさゆき コモンライフ則松
	美しい街並み賞 山形経済同友会奨励賞 コモンシティ南館
	「'87静岡の住宅」静岡県都市住宅部長賞 マイタウンあさば
大阪市ハウジングデザイン賞 グランドメゾン帝塚山	
1990年代	都市景観大賞、大阪府みどりの景観賞 最優秀賞、大阪都市景観建築賞 大阪府知事賞、関一都市創造大賞 エクセレント賞 新梅田シティ
	公共の色彩賞、商環境デザイン賞 優秀賞、兵庫県さわやか街づくり賞、神戸市建築文化賞 すまいいえなみ賞／建築文化賞、神戸建築百選、神戸景観・ポイント賞 特別賞 六甲アイランドCITY
	兵庫県さわやか街づくり賞、KANSAI優良団地賞、関西まちづくり賞 西宮マリナパークシティ
	福岡市都市景観賞、緑のまちづくり賞 スペースグリーン賞 シーサイドももち
	都市景観大賞、大阪府みどりの景観賞 優秀賞 コモンシティ星田
	全国花のまちづくりコンクール 建設大臣賞、福岡県建築住宅文化賞 大賞 新宮湊坂団地
	くまもと景観賞 さわやか街かど賞 北荒神町住宅
	かごしま克灰住宅コンテスト 優秀賞 花野団地



	<p>上田市都市景観賞 ライブシティ長池公園</p>
	<p>岡山市優秀建築物 特別賞 サンディスク操南台</p>
	<p>緑のまちづくり賞 スペースグリーン賞 フランネル壱岐</p>
	<p>住宅月間功労者表彰 建設大臣表彰、中部建築賞 入賞 ザ・シーン徳川園</p>
	<p>神奈川建築コンクール 優秀賞 コモンヒルズ安針台・海の手</p>
	<p>四日市市都市景観賞 グランドメゾン四日市</p>
	<p>奈良市建築文化賞 景観賞 グランドメゾン学園前ガーデンテラス</p>
	<p>緑のまちづくり賞 プライベートグリーン賞 グランドメゾン藤崎貳番館 グランドメゾン西新</p>
	<p>緑のまちづくり賞 スペースグリーン賞 グランドメゾン姪浜</p>
2000年代	<p>MIPIM Asia Awards 2007 “Mixed-Use Buildings” “Special Jury Award”、ULI Global Awards for Excellence、ULI Awards for Excellence : Asia Pacific、緑の都市賞 国土交通大臣賞、土地活用モデル大賞 都市みらい推進機構理事長賞、BCS賞 特別賞、港区みどりの街づくり賞 東京ミッドタウン</p>
	<p>全国市街地再開発功労者等表彰、東京都まちづくり功労者 知事感謝状 赤坂ガーデンシティ</p>
	<p>アジア人間居住環境国際サミット アジア・グリーン健康住宅区モデル賞、都市景観大賞 美しいまちなみ優秀賞 照葉のまち</p>
	<p>住まいのまちなみコンクール 住まいのまちなみ賞 シーサイドももち</p>
	<p>兵庫県人間サイズのまちづくり賞、西宮市都市景観賞 西宮マリナパークシティ</p>
	<p>兵庫県人間サイズのまちづくり賞 六甲アイランドCITY</p>
	<p>住まいのまちなみコンクール 国土交通大臣賞 コモンシティ星田</p>
	<p>住まいのまちなみコンクール 住まいのまちなみ賞 コモンライフ新宮浜</p>
	<p>彩の国さいたま景観賞 コモンシティ伊奈学園都市</p>

	草加市まちなみ景観賞 コモンシティ草加長栄町
	福井市都市景観賞 グリーンステートみのり
	徳島市街づくりデザイン賞 調べを奏でる前庭賞 コモンライフ津田
	佐世保市景観デザイン賞 コモンライフ日宇ヶ丘
	緑の都市賞 国土交通大臣賞 グランドメゾン東戸塚
	日本不動産学会業績賞 グランドメゾン杉並シーズン
	神奈川建築コンクール アピール賞 グランドメゾンセンター北
	愛知まちなみ建築賞 グランドメゾン東明町
	大阪府みどりの景観賞 奨励賞、豊中市都市デザイン賞 グランドメゾン東豊中
	港区みどりの街づくり賞 青山ザ・タワー
	目黒区みどりのまちなみ賞 グランドメゾン中目黒 THE CLASS
	大阪市ハウジングデザイン賞 グランドメゾン晴明丘 グランドメゾン大手前タワー
	茨木市都市景観賞 グランドメゾン茨木北春日丘
	西宮市都市景観賞 グランドメゾン苦楽園桜町
	東京建築賞 奨励賞 グランドメゾン山手225
	すまいる愛知住宅賞 都市基盤整備公団中部支社長賞 グランドメゾン清水ヶ岡
	緑のまちづくり賞 特別賞 グランドメゾンシリーズ
2010年代	みどりの顕彰制度 緑化大賞、屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 国土交通大臣賞、緑の都市賞 都市緑化機構会長賞 御殿山プロジェクト
	大阪サステナブル建築賞 大阪府知事賞 本町ガーデンシティ
	大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞)奨励賞 本町南ガーデンシティ

	サステナブル建築賞 財団法人建築環境・省エネルギー機構理事長賞 東京ミッドタウン
	草加市まちなみ景観賞 コモンガーデン草加
	郡山市景観まちづくり賞 コモンステージ郡山パークスクエア
	盛岡市都市景観賞 コモンステージ青山
	平成の米子市都市景観施設賞 スタイリッシュステージ上後藤
	神戸市都市デザイン賞(CASBEE建築部門) シティアンダンテ学園東町(建売住宅)
	大阪サステナブル建築賞 特別賞 グランドメゾン四條畷ゲートハウス
	吹田市いいでしょこのまち賞 グランドメゾン千里山西
	おおさか優良緑化賞 大阪府知事賞、大阪サステナブル建築賞 特別賞 グランドメゾン西九条BIO
	緑の都市賞 奨励賞 グランドメゾン伊勢山
	人間サイズのまちづくり賞 知事賞 グランドメゾン宝塚清荒神
	大阪市ハウジングデザイン賞 特別賞 グランドメゾン鞆公園

## 商品・技術ほか

### 日経優秀製品・サービス賞 (主催: 日本経済新聞社)

1992年2月	優秀賞(日経産業新聞賞) 「コモアしおつ」
2000年1月	優秀賞(日経産業新聞賞) 「セントレージ・グランツ」
2008年1月	審査委員特別賞 「東京ミッドタウン」
2010年1月	優秀賞(日経産業新聞賞) 「グリーンファースト」
2012年1月	優秀賞(日経産業新聞賞) 「グリーンファースト ハイブリッド」

## 技術開発賞

(主催: 一般社団法人日本音響学会)

2012年5月 高遮音床システム「SHAIDD(シャイド)55」

## IAUDアワード2012

(主催: 国際ユニヴァーサルデザイン協議会)

2012年10月 大賞(経済産業大臣賞)  
納得工房体験型研修とSH-UDマスタープランナー制度によるUD啓発活動

## メロウ・グランプリ

(主催: メロウ・ソサエティ・フォーラム)

1995年11月 優秀賞  
「生涯住宅」

## ケアリング企業賞

(主催: International Council for Caring Communities)

1999年2月 「生涯住宅」のコンセプトと取り組み

## 住宅ストック形成・有効活用システム提案募集

(主催: 建設省)

2000年11月 優秀提案  
「ユートラス システム」

## International Public Design Award 2009

(主催: 財団法人 韓国公共デザイン地域支援財団)

2010年2月 グランプリ  
新宿展示場(五感で実感できるユニバーサルデザインの家)

## 近畿地方発明表彰

(主催: 社団法人 発明協会)

1973年11月 発明奨励賞  
組立家屋の骨組

1980年11月 発明奨励賞  
長尺材の電着塗装装置

1985年11月 発明奨励賞  
コンクリート基礎の造成方法ほか6件

## 工業化住宅等品質向上貢献企業表彰

(主催: 通商産業省)

1990年2月 通商産業大臣表彰  
工業化住宅等の全社的品質管理の推進

キッズデザイン賞(主催:特定非営利活動法人キッズデザイン協議会)

2007年8月	(建築・空間デザイン部門) 「キッズでざいん」子どもの生きる力をはぐくむ家
2008年7月	(建築・空間デザイン部門)部門賞 「グランドメゾン伊丹池尻 リテラシティ」
	(リサーチ部門)部門賞 乳幼児を対象とした身体および動作計測装置の開発と建築安全計画への考察
	(商品デザイン部門) 空気環境配慮「ケミケア」仕様
	(コミュニケーションデザイン部門) 体験思考型環境教育プログラム「Dr.フォレストからの手紙」 「新・里山」空間を使った地元の子どもたちへの環境教育活動 「照葉のまち」におけるコミュニティー活動推進「照葉 キッズ グローウイング プロジェクト」
2009年7月	(商品デザイン部門) 指はさみ防止引き戸 ケータイホームシステム
	(建築・空間デザイン部門) セキュリティータウン「リフレ岬 望海坂」 可変子ども空間
	(コミュニケーションデザイン部門) 「静岡 住まいの夢工場」における住育体験学習 携帯電話サイト「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」
	(リサーチ部門) 通学路における子どもの犯罪危機回避に関する基礎的研究
2010年7月	(フューチャーアクション部門)最優秀賞:経済産業大臣賞 「プレイフル・デザイン・スタジオ こどもから学ぶ・おとなが変わる」※1
	(フューチャープロダクツ部門)優秀賞 「サステナブル デザイン ラボラトリー」
	(キッズセーフティ部門) オリジナルユニットバス「バスコア BCH V」
	(ユニバーサルセーフティ部門) 「SH-UD」(積水ハウスユニバーサルデザイン)による住空間 ベビーカーおよび車いす使用に安全な通路設計の研究
	(フューチャーアクション部門) 「5本の樹」いきもの調査
	(フューチャープロダクツ部門) MUSIC HOUSE 「CO2バランスモニタ」の開発
	(ソーシャルキッズサポート部門) 積水ハウスマッチングプログラム こども基金 実測に基づく室内干し時における洗濯物の乾燥時間および室内温湿度環境
	(ソーシャルキッズプロダクツ部門) 共働きファミリーが暮らす家「トモイエ」



2011年7月	(ソーシャルキッズプロダクツ部門) 優秀賞 高遮音床システム(L-55)「SHAIDD55(シャイド55)」
	(フューチャープロダクツ部門) 審査員特別賞 「積水ハウスのLEDくらし」
	(ユニバーサルセーフティ部門) 子どもでも「安心だ錠！」 フルフラットサッシ・フルフラットバルコニー Smart-UD(スマートユニバーサルデザイン)による住空間
	(フューチャープロダクツ部門) 「緑育プラザ+七国シフォンの丘公園」
	(ソーシャルキッズサポート部門) 「コモンステージ弥生が丘」
2012年7月	(子ども視点の安全安心デザイン 一般部門) 審査委員長特別賞 子どものためのスマートユニバーサルデザイン ～生活者とともに作る子どもの安全な成長を考えた住まい～
	(子どもの未来デザイン クリエイティブ部門) 審査委員長特別賞 こどもOSに基づくデザイン発想ツール「プレイフル・デザイン・カード」の開発と検証 ※1
	(子どもの未来デザイン クリエイティブ部門) 上に広がるわくわく秘密基地「アクティブフロア+ロフトステップ」
	(子どもの未来デザイン リテラシー部門) 「けやき幼稚園」～樹齢400年の大けやきのある森とともに～ ※2 子どものインテリア力からの住育研究 ※3
	(子どもの産み育て支援デザイン 地域・社会部門) 多世代居住の「ひと縁」をつくる ～マストライフ古河庭園～

※1 「こどもOS研究会」参加自治体・企業による応募

※2 学校法人越阪部学園との共同応募

※3 京都女子大学との共同応募

#### グッドデザイン賞(主催:公益財団法人 日本デザイン振興会)

1991年10月	(商品デザイン部門) 「イズ・ステージ(N-251-MT)」
1995年9月	(商品デザイン部門) 金賞 「アービス3・プライベート」
1996年10月	(商品デザイン部門) 「セントレージBR-a」
1998年10月	(商品デザイン部門) 「グルニエ・ダインシリーズ(UX・JX・NEO)」
1999年10月	(商品デザイン部門) 「ピエナ」
2000年10月	(商品デザイン部門) 可動間仕切収納「ヴァリエス」 シャーウッド住宅「エム・シャントアRX」
2001年10月	(建築・環境デザイン部門) 「コモンシティ+王・城の丘」

2002年10月	(建築・環境デザイン部門) 「ベータ・ラボ」
2003年10月	(建築・環境デザイン部門) シャーウッド住宅「エム・グラヴィス ステージ」
2004年10月	(建築・環境デザイン部門) 「生活を遊ぶ家」
2005年10月	(建築・環境デザイン部門) 都市型モデル「ビー アーバン」
2006年10月	(建築・環境デザイン部門) 「東京テラス」
	(新領域デザイン部門) 「5本の樹」計画
2007年10月	(建築・環境デザイン部門) シャーウッド住宅「緑の家」 「東京ミッドタウン」
2008年10月	(新領域部門) 環境共生型まちづくりデザイン手法「n×豊か」
2009年10月	(生活領域／住宅設備部門) 積水ハウスオリジナル瓦型太陽光発電システム
2010年9月	(生活領域／住宅設備部門) 「スマート ユニバーサルデザイン」
2011年10月	(住宅部門) 「スローリビング」
2012年10月	(住宅・住宅設備部門) 陶版外壁「ベルバーン」 戸建分譲地「かずさの杜 ちはら台」

## サステナビリティレポート

### 環境コミュニケーション大賞

(主催: 環境省、一般財団法人 地球・人間環境フォーラム)

2004年12月	環境報告優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞) 環境報告書「ECO WORKS 2004」
2007年2月	持続可能性報告優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞) 持続可能性報告書「サステナビリティレポート2006」
2012年3月	生物多様性報告特別優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞) 持続可能性報告書「サステナビリティレポート2011」

### 環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞

(主催: 東洋経済新報社、グリーンリポーティングフォーラム)

2005年4月	環境報告書賞(優良賞) 環境報告書「ECO WORKS 2004」
2007年4月	サステナビリティ報告書賞(優良賞) 持続可能性報告書「サステナビリティレポート2006」